

『生成統語論入門： 普遍文法の解明に向けて』

[問題解答例]

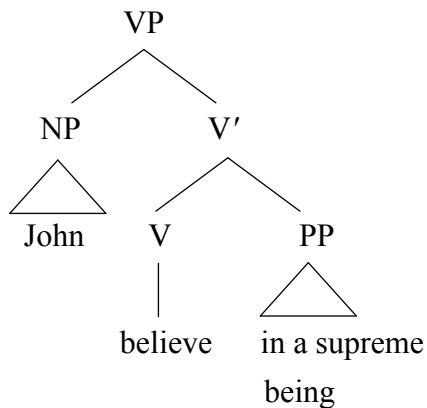
第2章 X'理論

【問題1】 (p. 26)

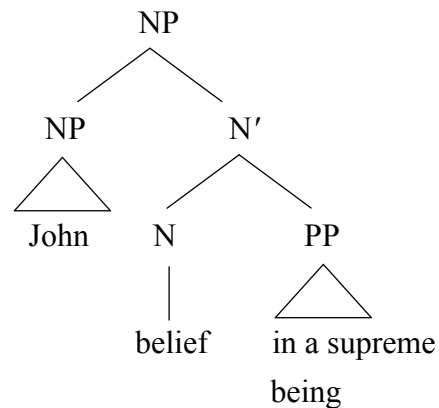
もし派生名詞句も、動名詞句と同様、名詞化変形規則によって派生されるのであれば、(12b, c) の容認性の違いを説明することはできない。これに対して、派生名詞句はそのまま深層構造で生成されるとする考え方を取れば、(12c) の深層構造では、全体が NP を成しているので、(13) の条件により、副詞節 *before he read it* は NP 内を修飾できないことになる。よって (12c) は非文法的となる。これに対して、(12b) は (12a) に相当する深層構造から名詞化変形規則によって派生されるため、深層構造では S(sentence) を成し、(13) の条件は当てはまらない。よって、(12b) は文法的となる。

【問題2】 (p. 30)

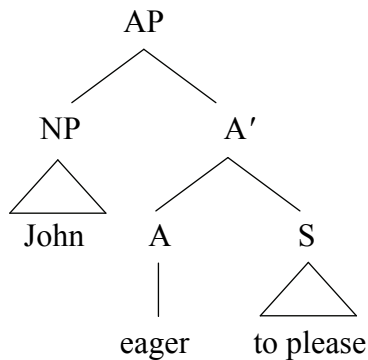
(2) a.



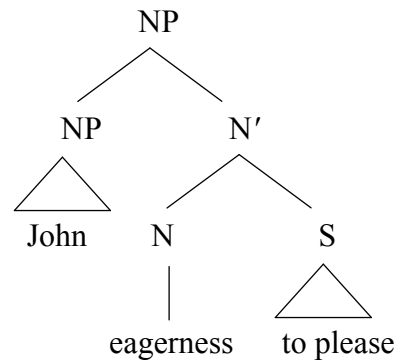
b.



(3) a.



b.

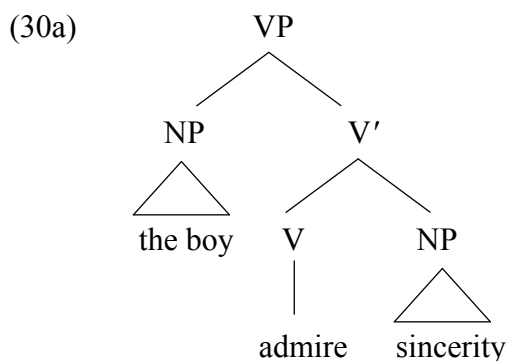
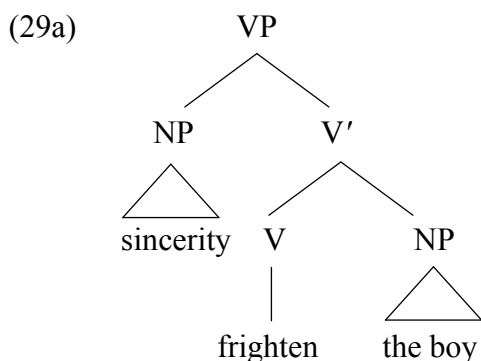


【問題 3】 (p. 35)

語彙指定：

frighten: V, (Theme, Exp) [___ NP]

admire: V, (Exp, Theme) [___ NP]



上の *frighten* の語彙指定によれば、外項が **Theme** で内項が **Exp** であることから、VP の指定部の位置には、**Theme** を担う NP が、そして補部の位置には、**Exp** を担う NP が生起しなければならないが、これを (29b) の文に当てはめると、*the boy* が **Theme** の働きをし、*sincerity* が **Exp** の働きをすることになる。そうすると、意味解釈は、「少年という対象体が誠実さという経験主を驚かせる」ということになり、意味を成さない。同様に、*admire* の語彙指定によれば、VP の指定部の位置には、**Exp** を担う NP が、そして補部の位置には、**Theme** を担う NP が生起しなければならないが、これを (30b) の文に当てはめると、*sincerity* が **Exp** の働きをし、*the boy* が **Theme** の働きをすることになる。そうすると、意味解釈は、「誠実さという経験主が少年という対象体を賞賛する」ということになり、これも意味を成さない。

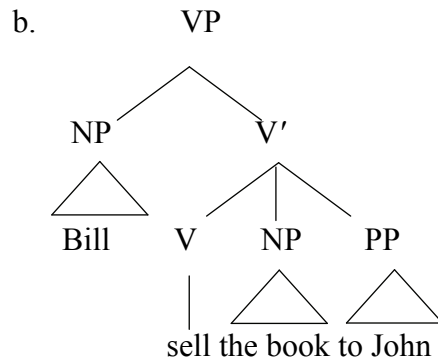
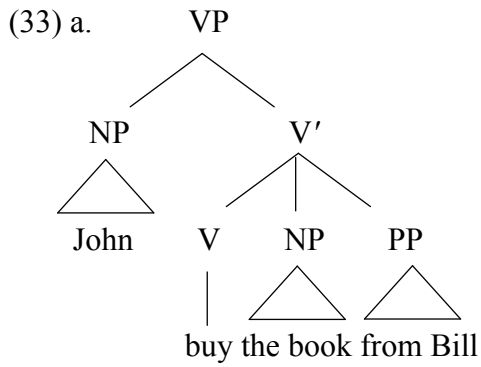
【問題 4】 (p. 36)

語彙指定：

buy: V, (Agent, Theme, Source) [___ NP PP]

sell: V, (Agent, Theme, Goal) [___ NP PP]

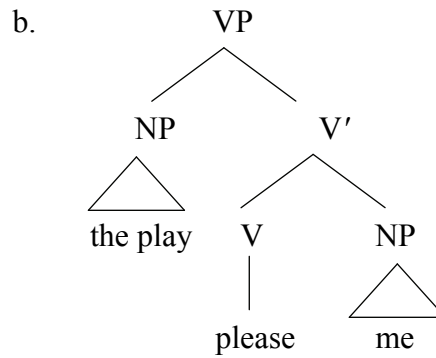
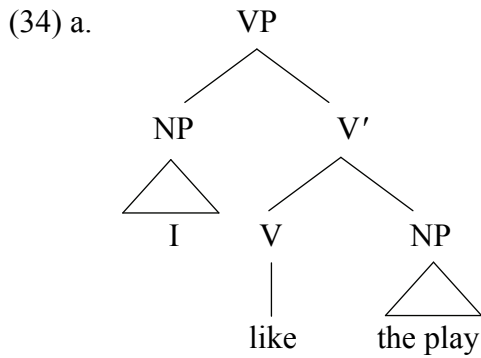
(ちなみに、*buy* の **Agent** は **Goal** でもありうるし、また *sell* の **Agent** は **Source** でもありうる。このようにして、(33a, b) の同義性を捉えることができる。)



語彙指定：

like: V, (Exp, Theme) [___ NP]

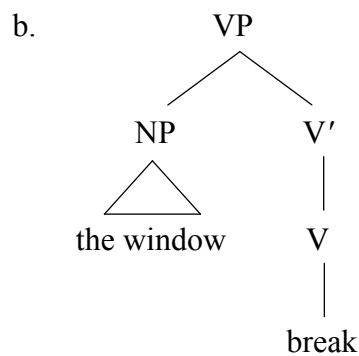
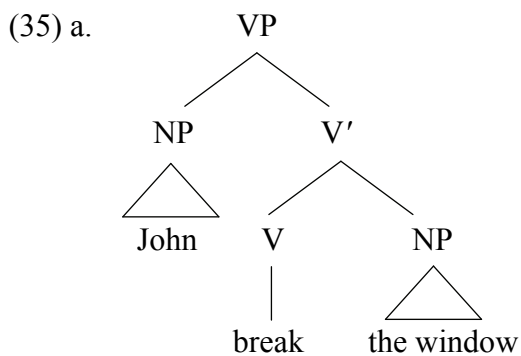
please: V, (Theme, Exp) [___ NP]



語彙指定：

break: V, (Agent, Theme) [___ NP]

break: V, (Theme) [___ ϕ] (あるいは, 範疇指定は必要ない)

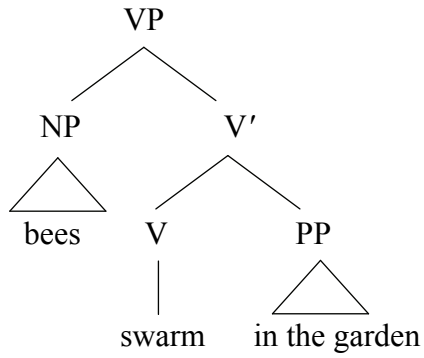


語彙指定：

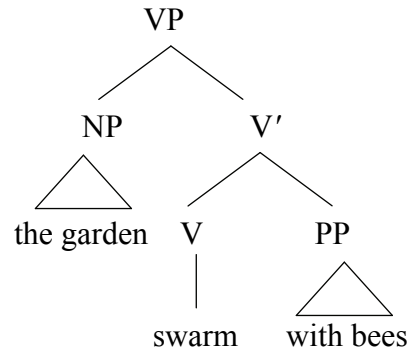
swarm: V, (Theme, Loc) [___ PP]

swarm: V, (Loc, Theme) [___ PP]

(36) a.



b.



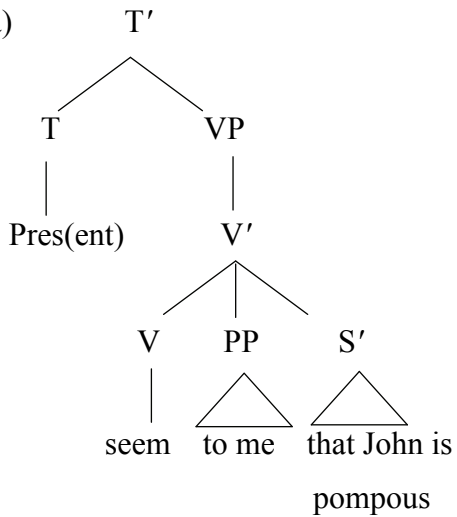
【問題 5】 (p. 42)

語彙指定：

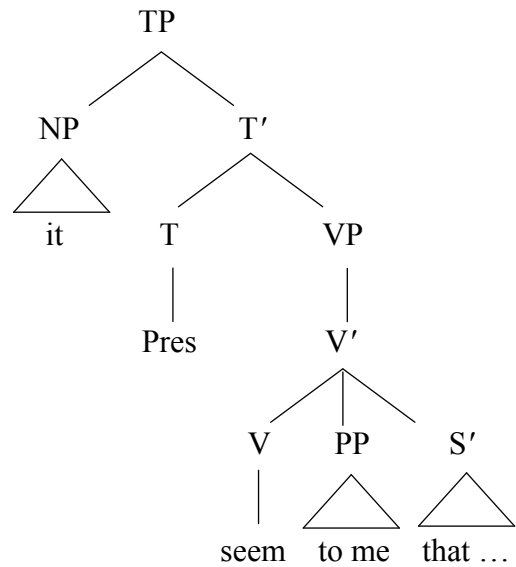
seem: V, (Exp, Theme) [___ PP S']

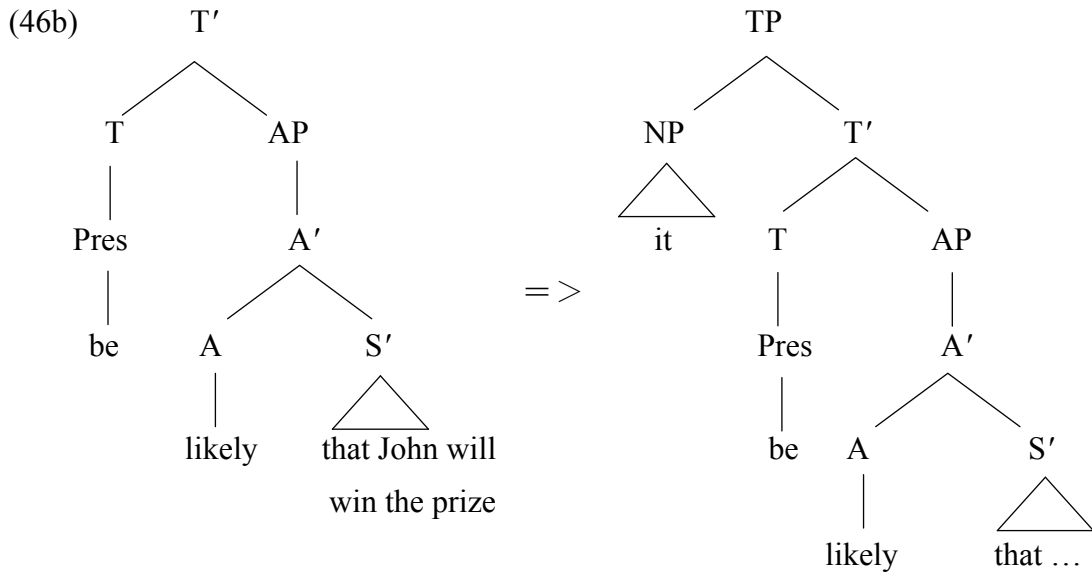
likely: A, (Theme) [___ S']

(46a)

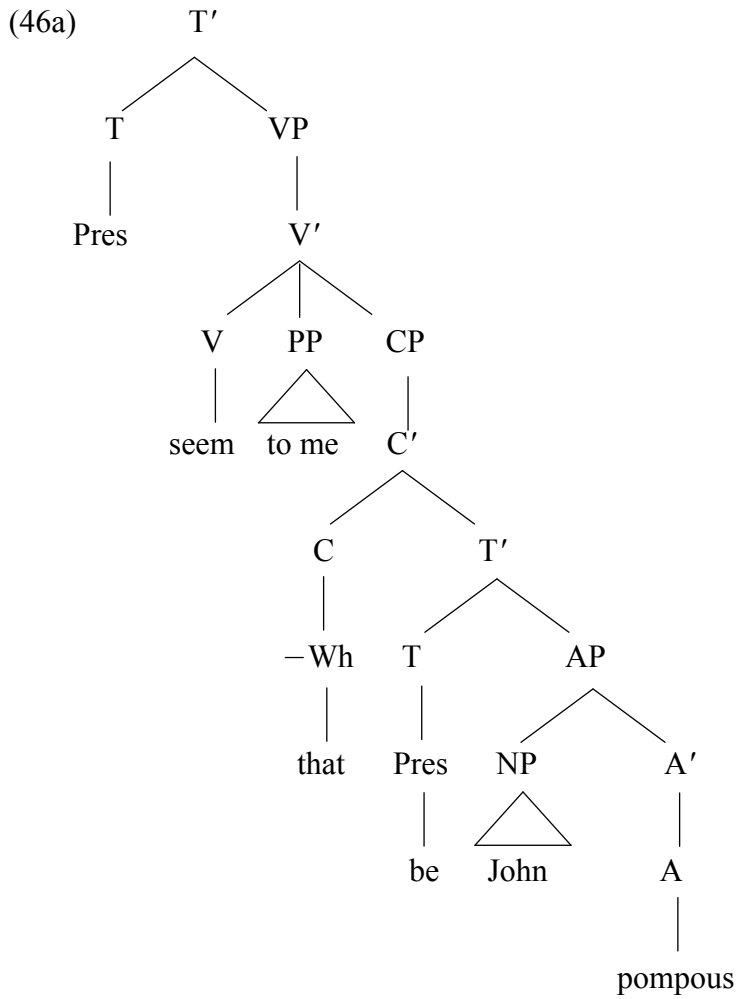


=>

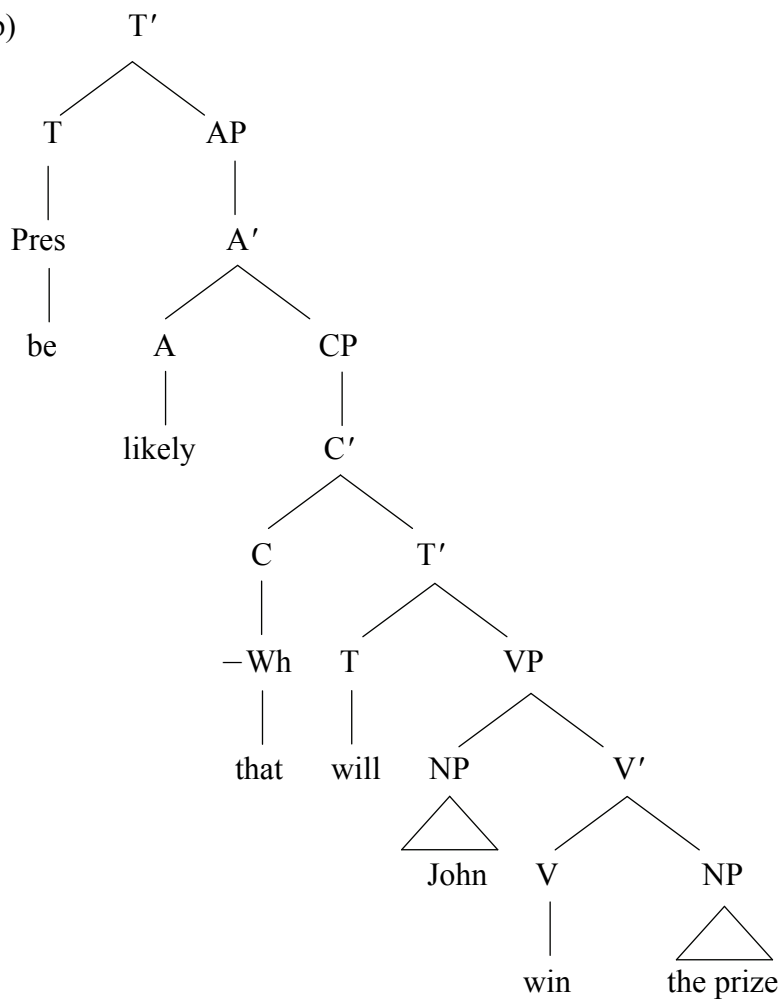




【問題 6】 (p. 44)



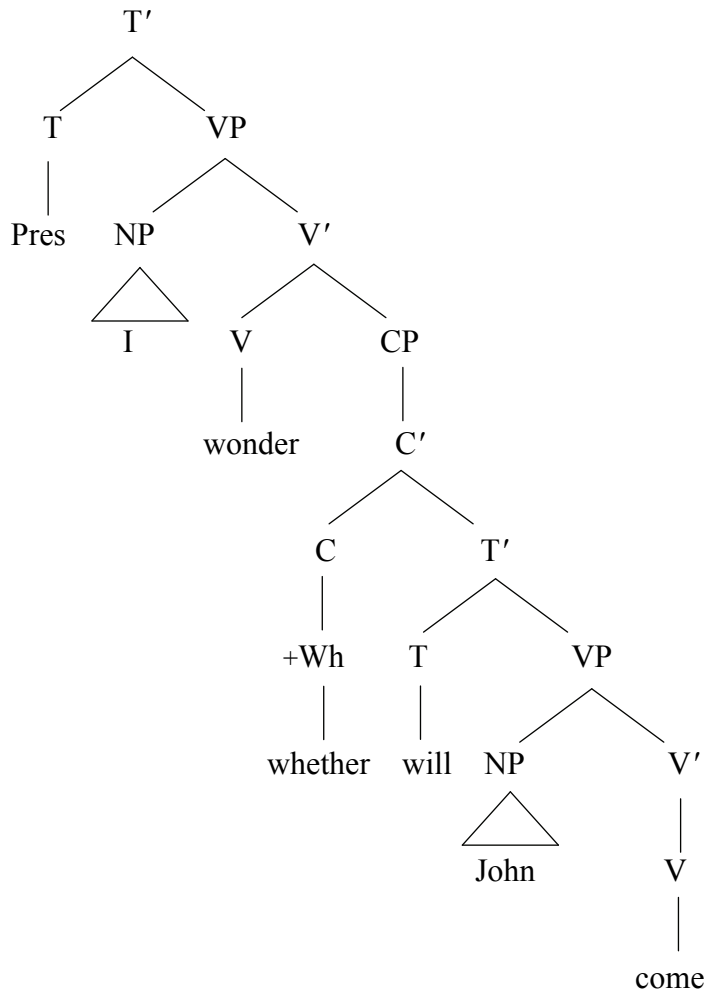
(46b)



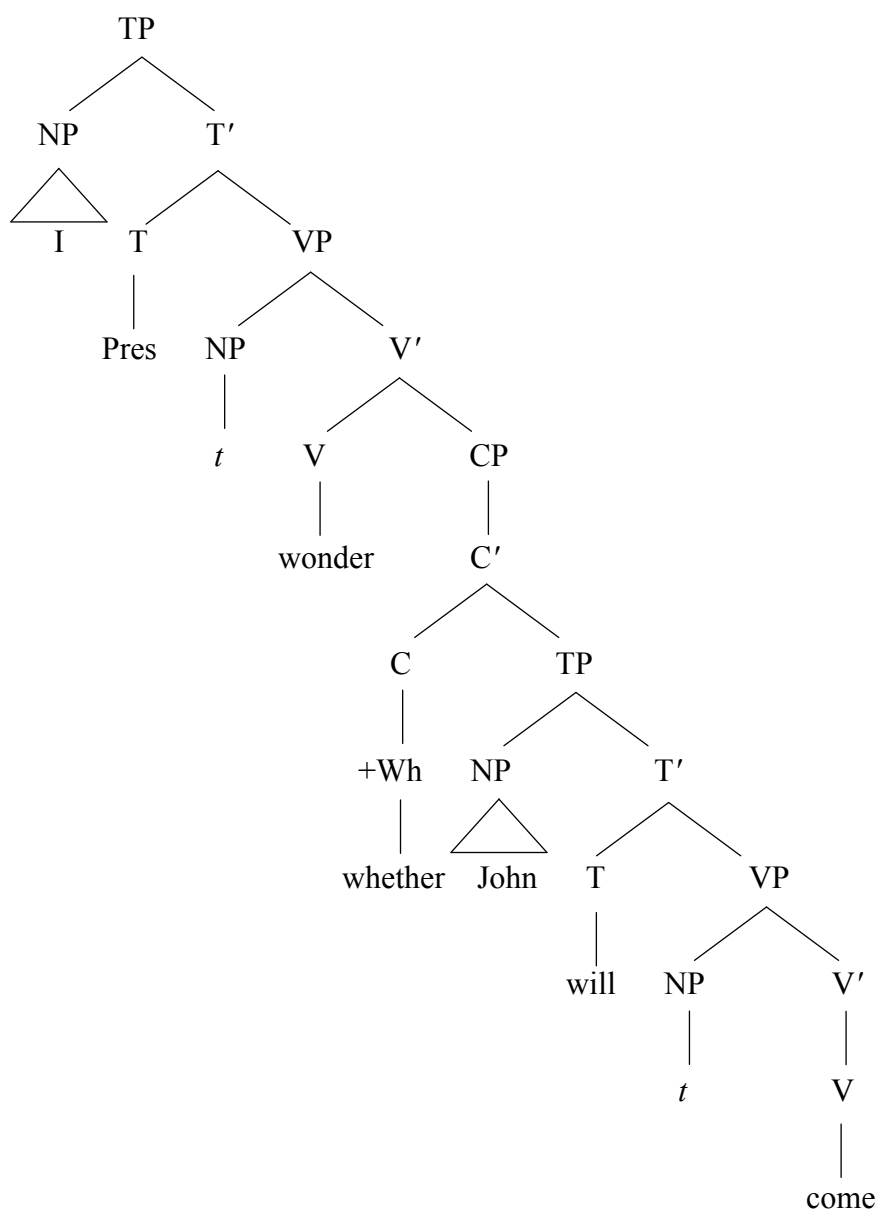
語彙指定：

wonder: V, (Exp, Theme) [___ CP]

(49): 深層構造



(49): 表層構造

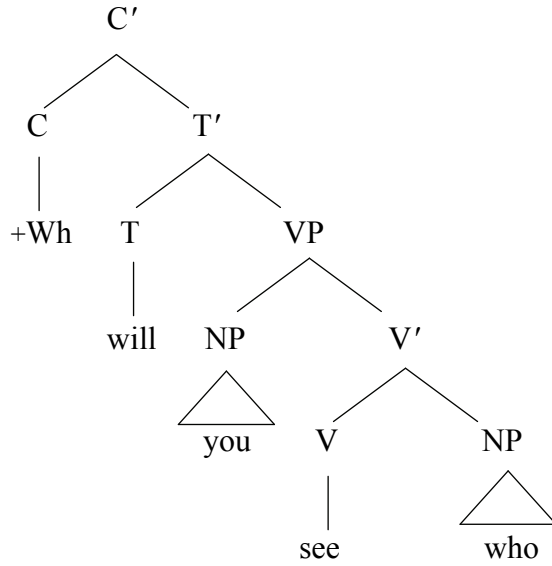


【問題 7】 (p. 45)

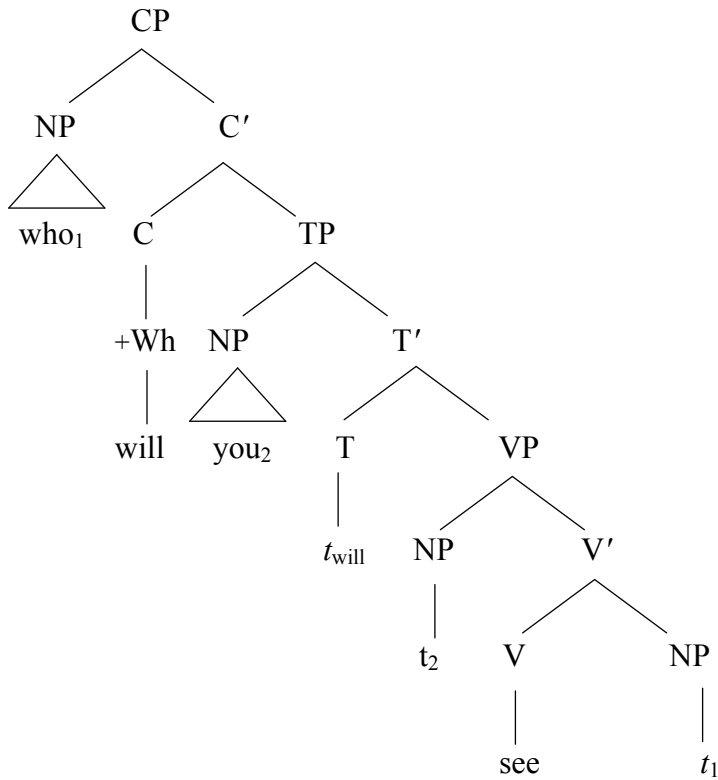
語彙指定：

see: V, (Agent, Theme) [___ NP]

(50): 深層構造



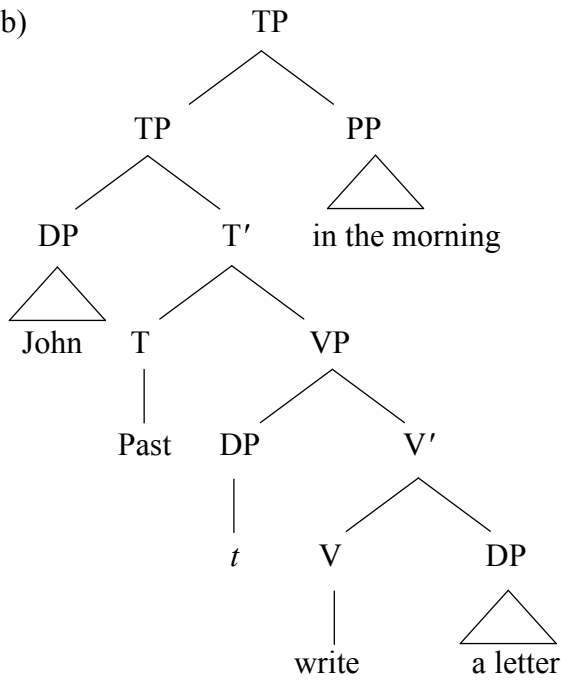
(50): 表層構造



【問題 8】 (p. 50) 割愛

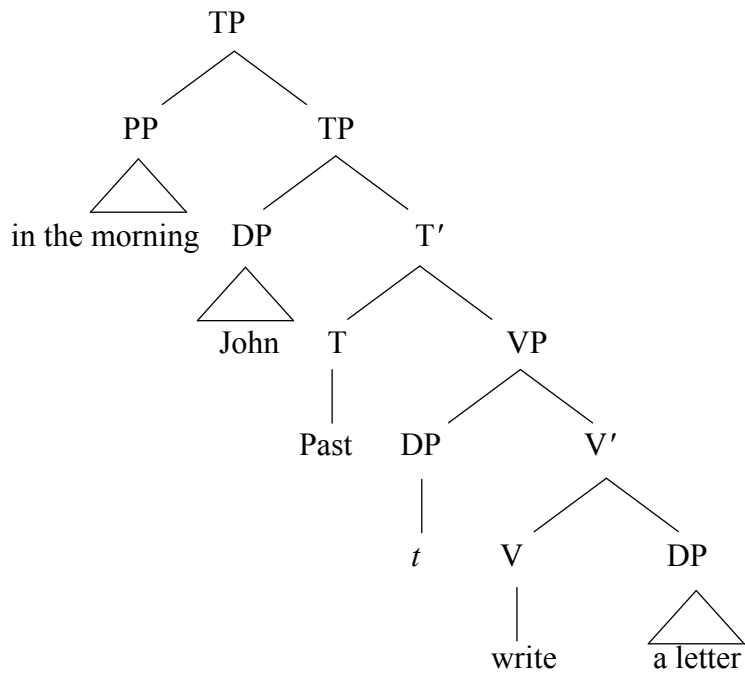
【問題 9】 (p. 53)

(58b)

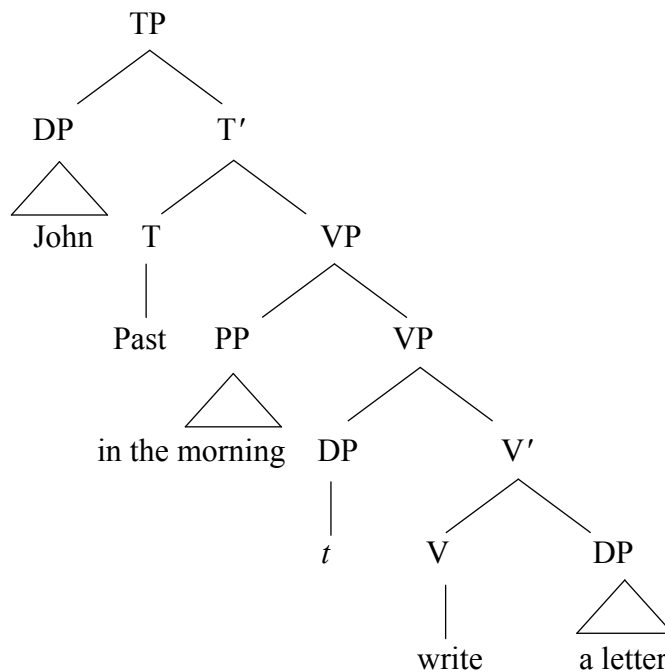


【問題 10】 (p. 55)

(64)



in the morning が VP に付加した場合 :



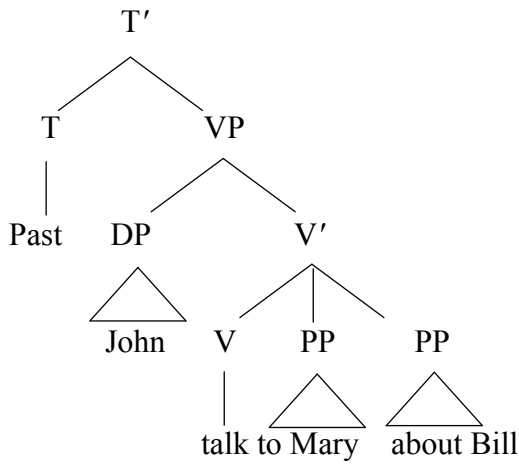
Past が動詞 write に付加したと仮定すると、この構造から派生されるのは *John in the morning wrote a letter. という非文法的な文である。

【問題 11】 (p. 56)

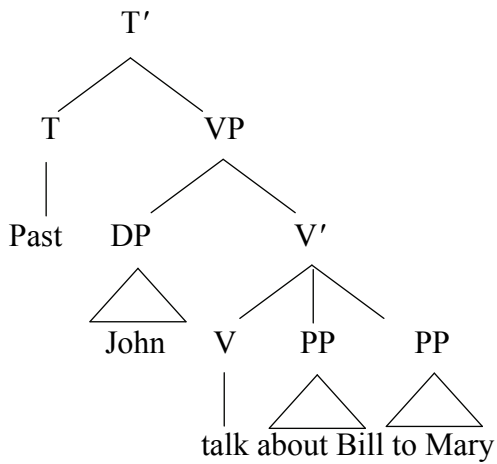
(68) において、動詞の後の二つの PP を入れ替えても文は成り立つことは、talk が以下の二つの語彙指定を持つことから説明がつく。

- (i) *talk*: V, (Agent, Goal, Theme) [___ PP PP]
- (ii) *talk*: V, (Agent, Theme, Goal) [___ PP PP]

(68a) の深層構造 :



(68b) の深層構造 :



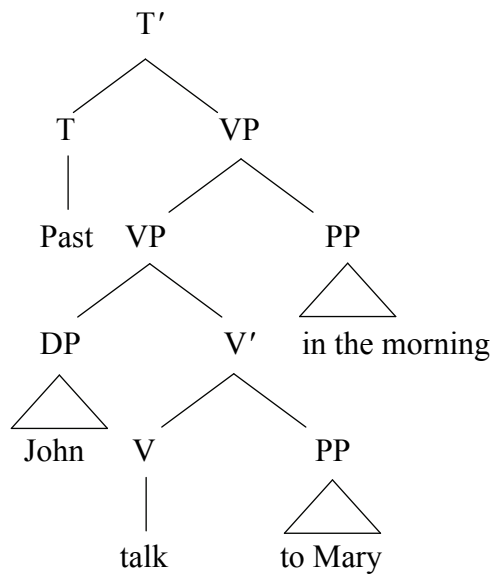
(69a) の文が可能なことから, 上の talk の Theme は生起してもしなくとも良いことがわかる. よって, talk の語彙指定は以下のように改められる.

(i) *talk*: V, (Agent, Goal, (Theme)) [___ PP (PP)]

(ii) *talk*: V, (Agent, (Theme), Goal) [___ (PP) PP]

(実際には, Goal の生起も随意的なので, Goal にもかっこが付与される.)

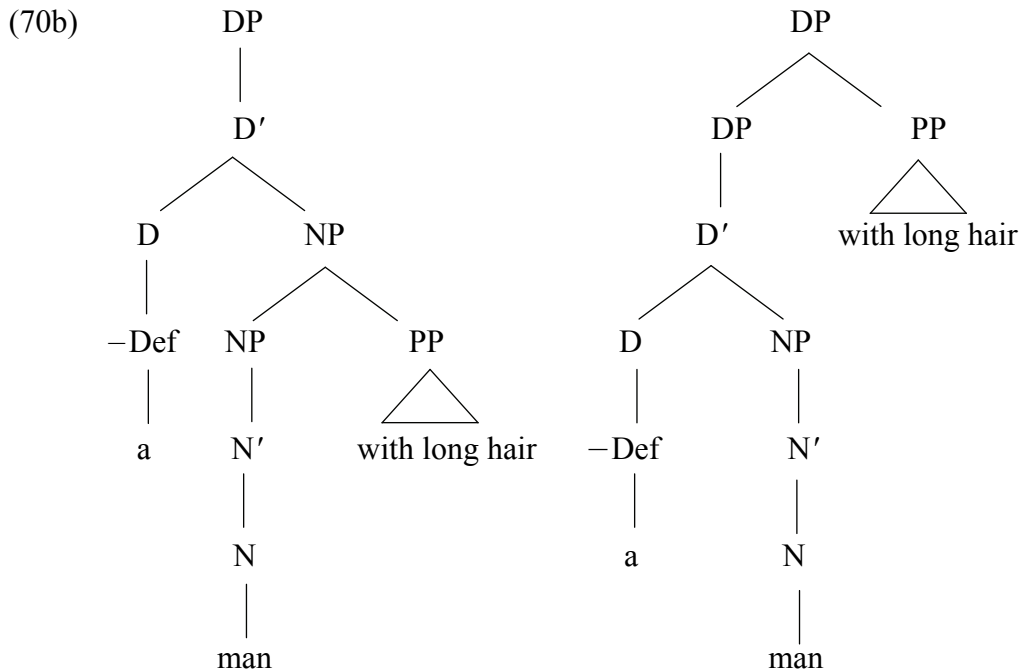
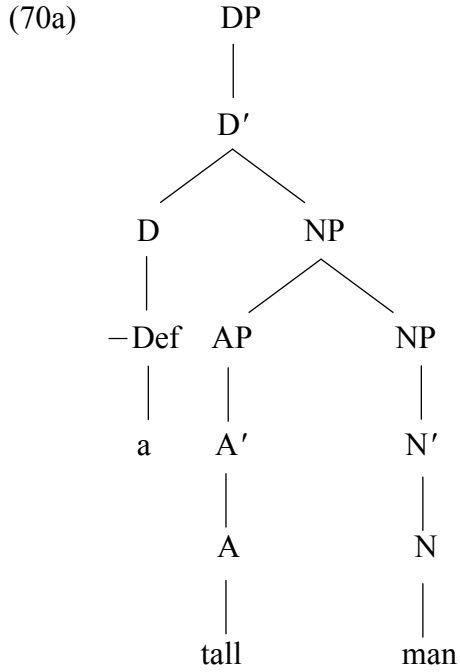
(69a) の深層構造 :



(69b) の文を派生するためには，上の構造で **in the morning** を **talk** に右側から付加するか，**to Mary** に左側から付加するかのいずれかでないと，語順を正しく捉えられない．しかし，仮定上，句は主要部に付加できないので，**in the morning** は **talk** に付加できないし，**in the morning** が **to Mary** を修飾すると見なすのは，明らかに，意味的におかしい．

【問題 12】 (p. 56)

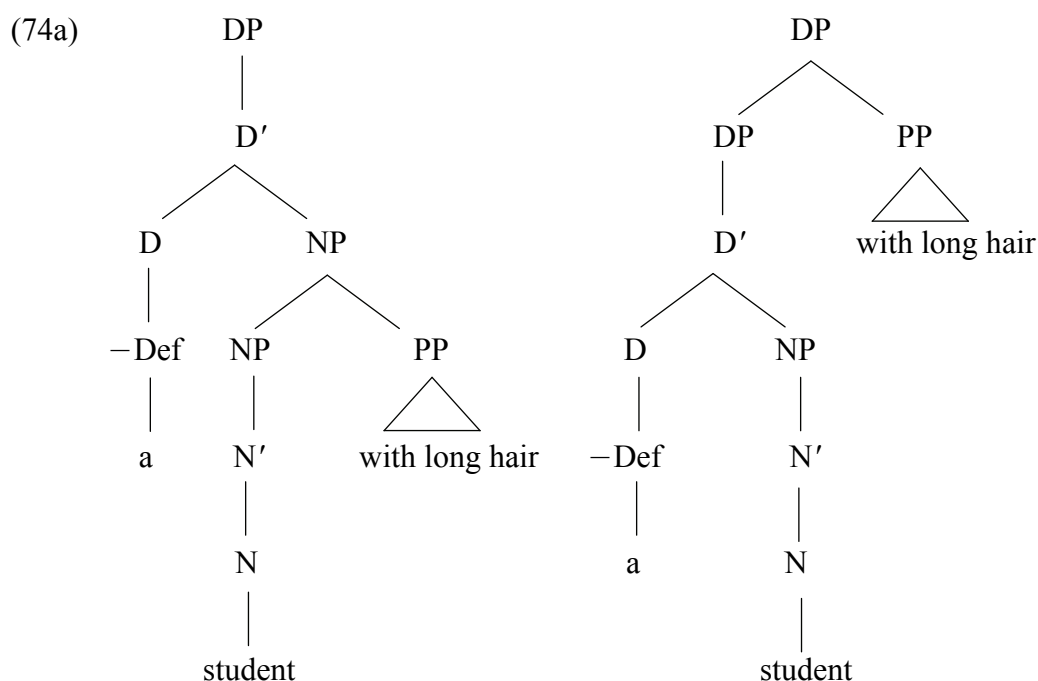
以下の構造において、A は Adjective (形容詞) を表す。

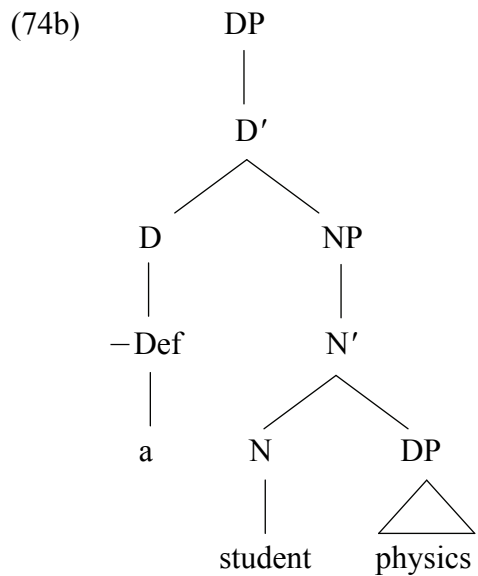


【問題 13】 (p. 58)

まず, (75a, b) の文法性の違いから分かることは, student に後続する二つの PP of

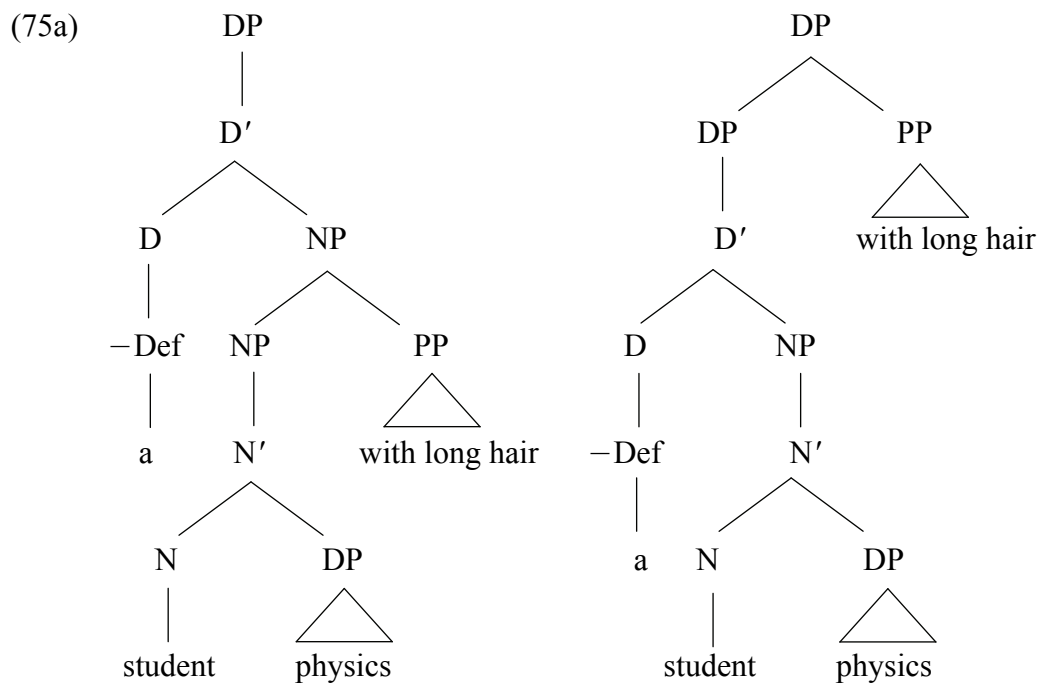
physics と with long hair は、両方ともに student に対する内項として働いているわけではないということである。そうであれば、(68) の例文で示した通り、語彙指定の違いによって、(75a, b) とともに派生可能なはずだからである。また、この二つの PP がともに付加詞であるとも考えられない。というのは、もしそうであれば、(75b) の統語構造として、with long hair を NP に付加し、of physics を DP に付加することが可能だからである。名詞 student が動詞 study の名詞化形であることを考慮すれば、student と physics の関係は study と physics との関係、すなわち主要部とそれが意味選択する内項との関係と見なすのが自然である。そうすると、(74a, b) は以下の構造を持つ。





(74b) は上の構造から、of挿入規則 (56) によって、ofを student と physics の間に挿入することによって得られる。

また、(75a) には以下の構造が与えられる。

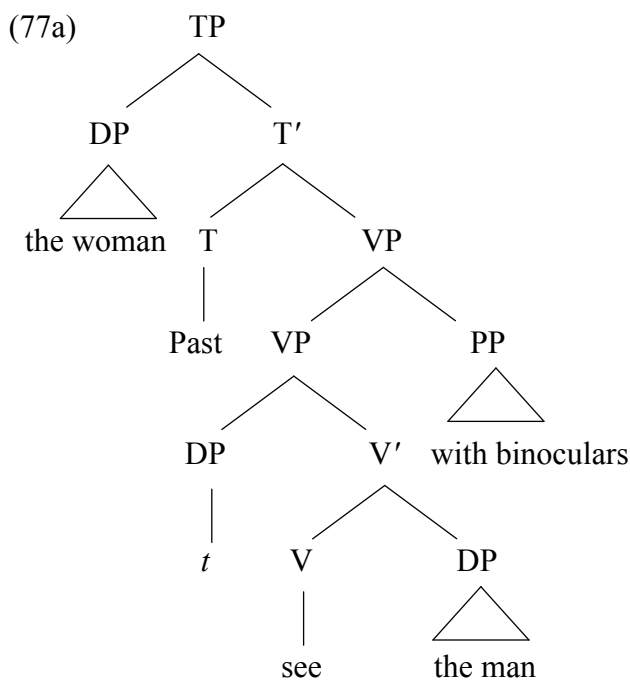


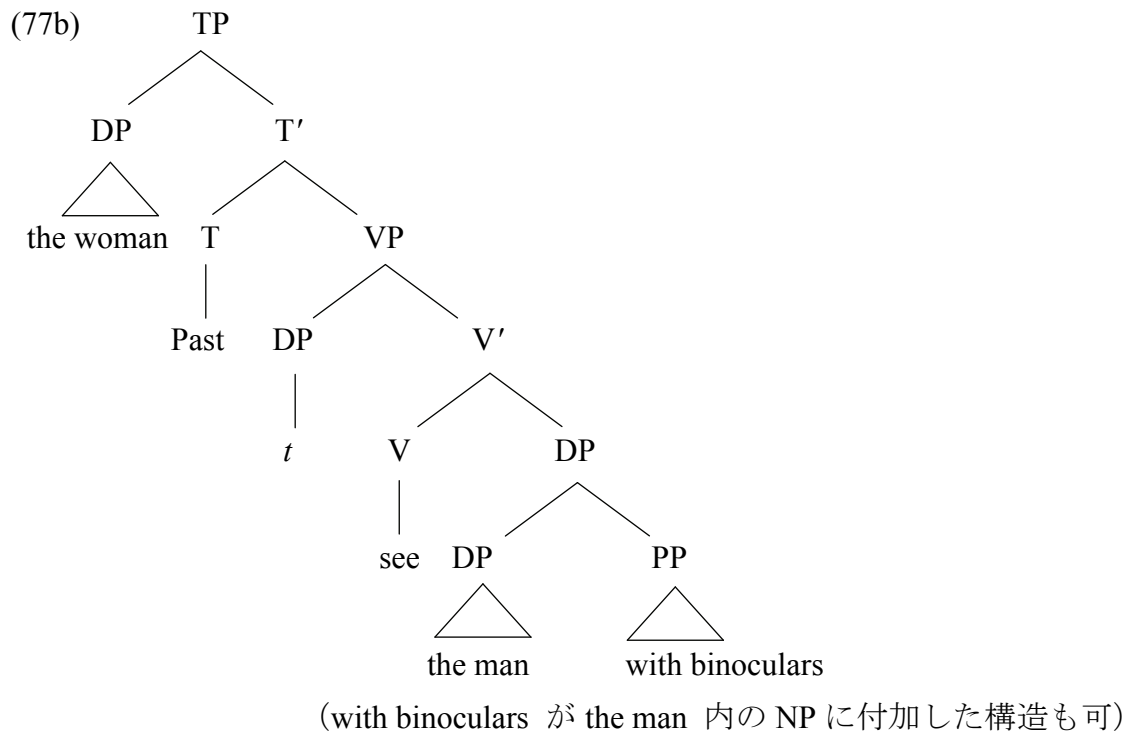
(75b) を派生するためには、(74b) の構造で with long hair を student に右側から付加するか、physics に左側から付加するかのいずれかでないと、語順を正しく捉

えられない。しかし、仮定上、句は主要部に付加できないので、with long hair は student に付加できないし、with long hair が physics を修飾すると見なすのは、明らかに、意味的におかしい。

また、(76a) では、with short hair が DP に付加する構造が可能であることから、one が前出の NP を指し示すという仮定によって、この場合の one が前出の student のみを指し示すことが可能である。これに対して、(76b) では、one が前出の student のみを指し示すことが意図されているが、これは不可能である。というのは、one は前出の NP を指し示すことから、(76b) では、one は必然的に student of chemistry を指し示さなければならないからである。

【問題 14】 (p. 58)





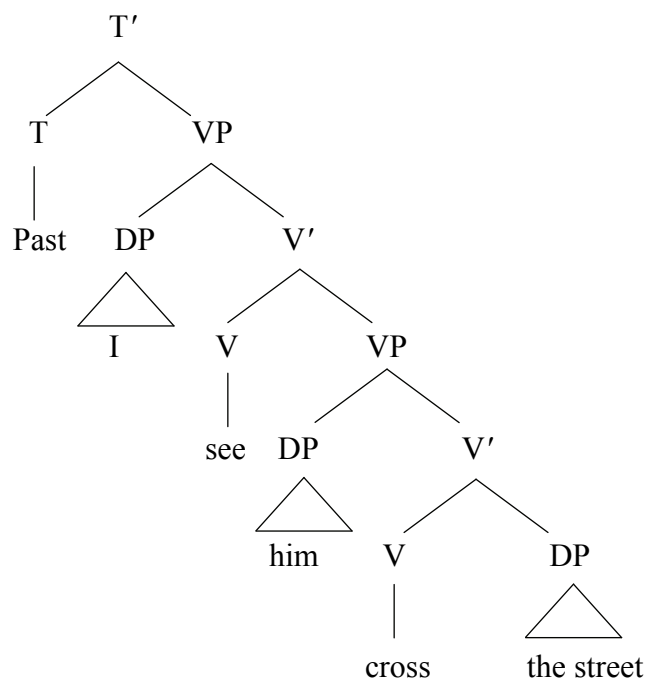
【問題 15】 (p. 59)

(78a): 語彙指定 :

see: V, (Exp, Theme) [___ VP]

cross: V, (Agent, Theme) [___ DP]

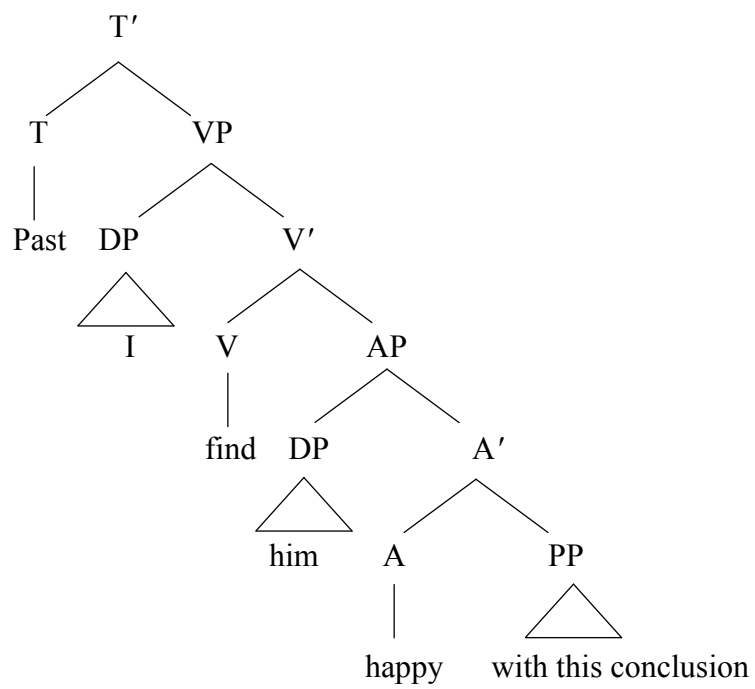
深層構造：



(表層構造は、上部の VP の指定部にある DP の I が、TP 指定部に移動することによって、派生される.)

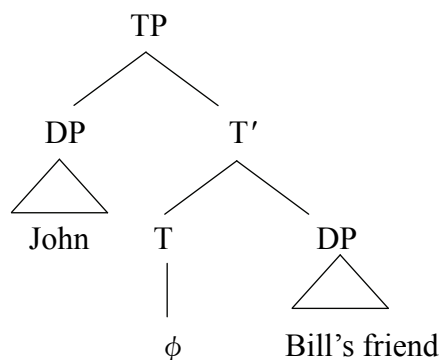
(78b): 語彙指定 : *find*: V, (Exp, Theme) [___ AP]
happy: A, (Exp, Theme) [___ PP]

深層構造：

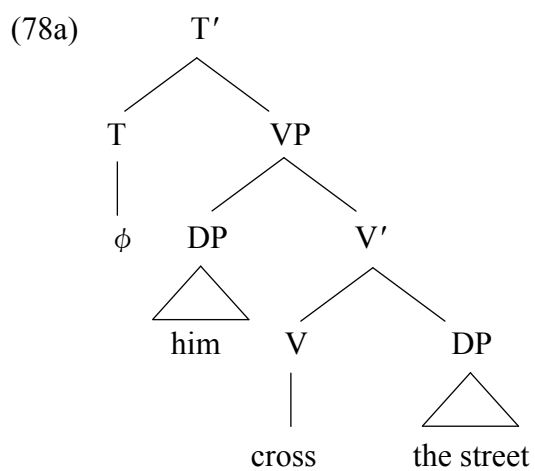


【問題 16】 (p. 61)

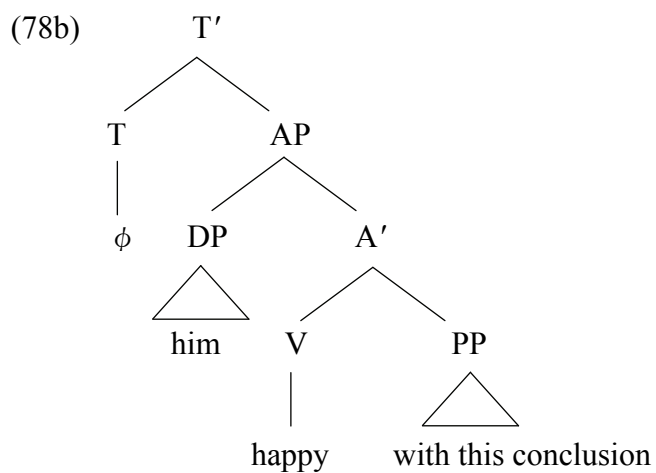
(82)



【問題 17】 (p. 61)



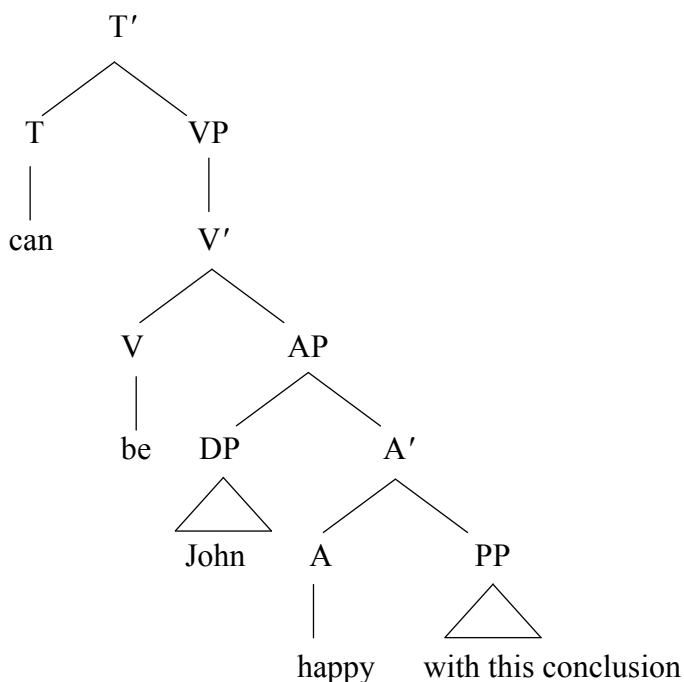
(表層構造は, VP の指定部にある him を TP 指定部に移動することによって, 派生される.)



(表層構造は, AP の指定部にある him を TP 指定部に移動することによって, 派生される.)

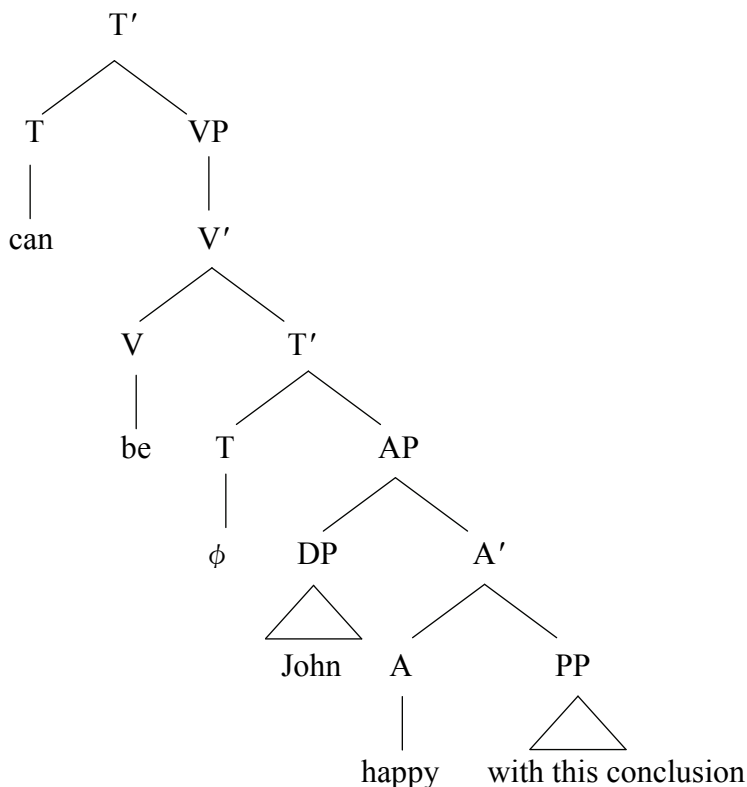
【問題 18】 (p. 64)

(85a)

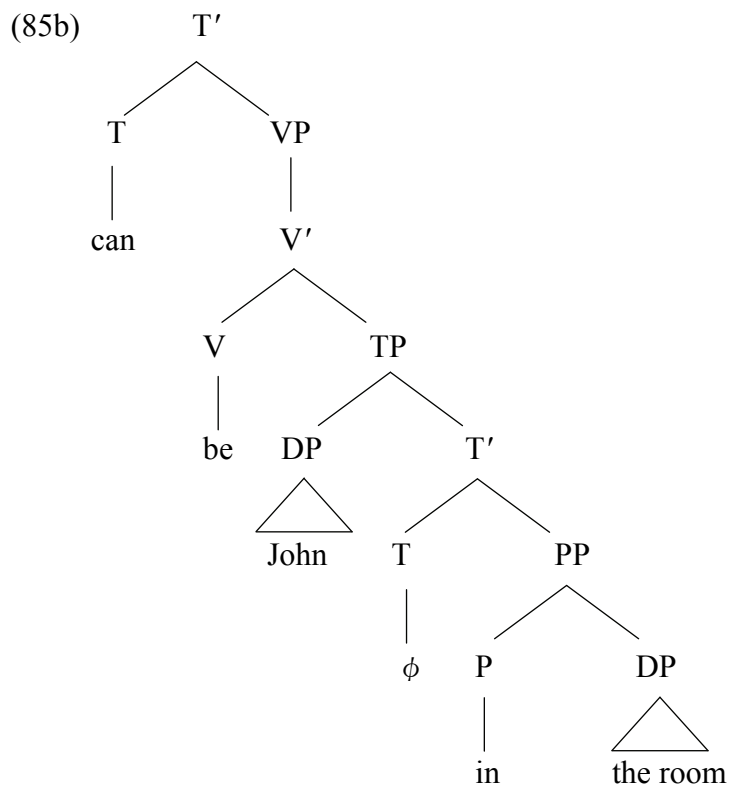


(表層構造は, AP の指定部にある John を TP 指定部に移動することによって, 派生される.)

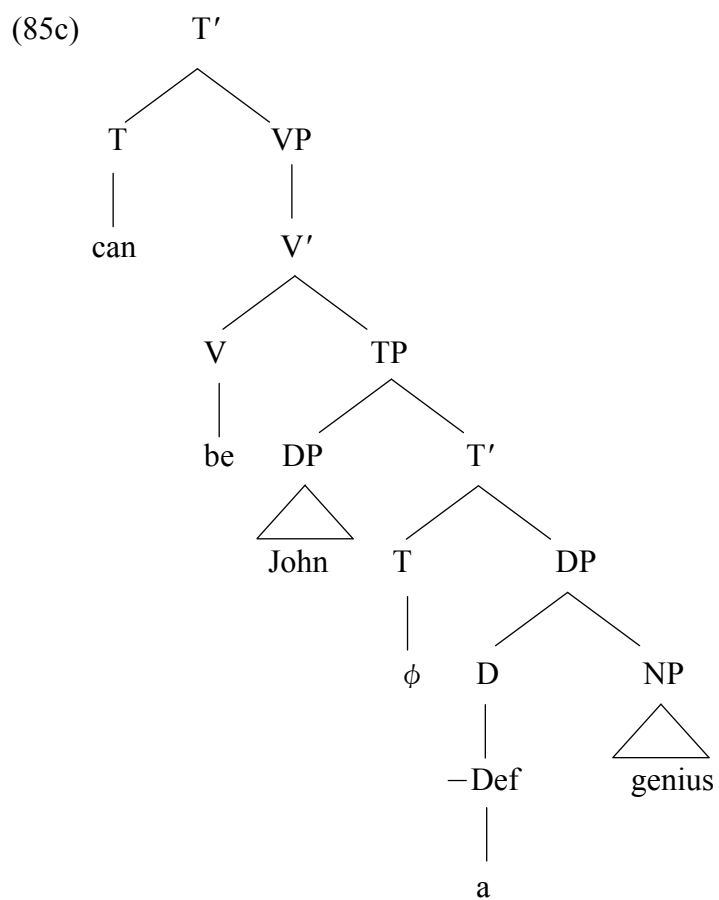
(85a)



(表層構造は、AP の指定部にある John を下部の TP を通って、上部の TP 指定部に移動することによって、派生される.)



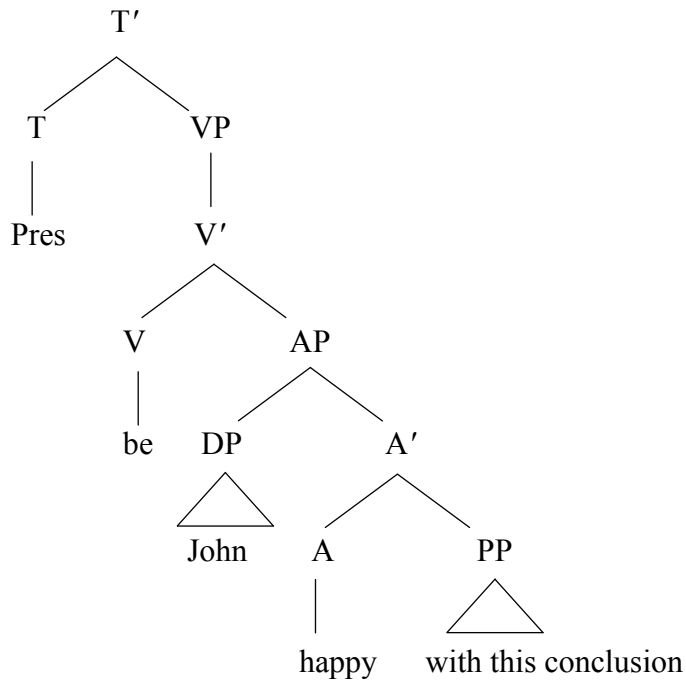
(表層構造は、下部の TP の指定部にある John を上部の TP 指定部に移動することによって、派生される.)



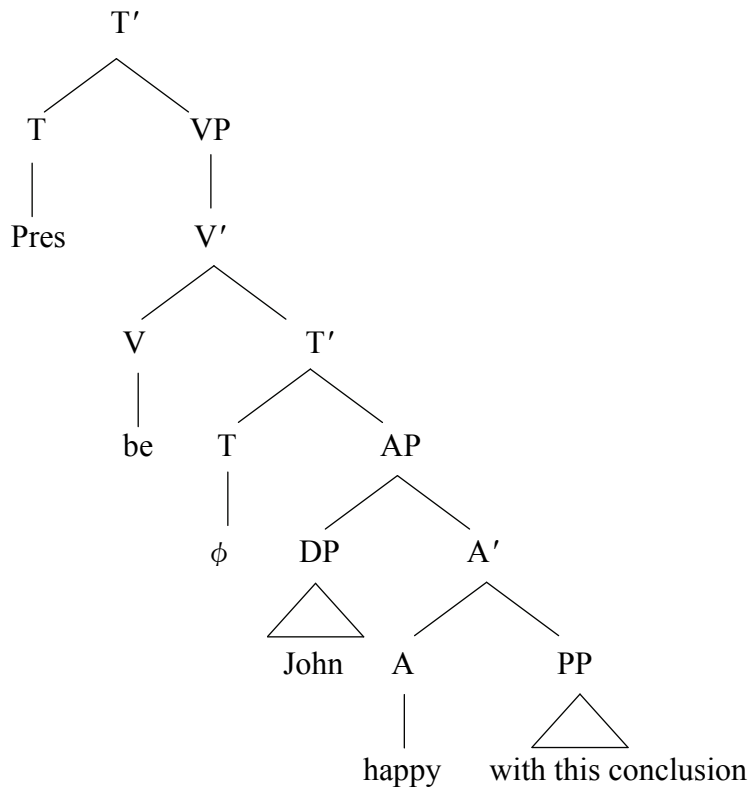
(表層構造は、下部の TP の指定部にある John を上部の TP 指定部に移動することによって、派生される.)

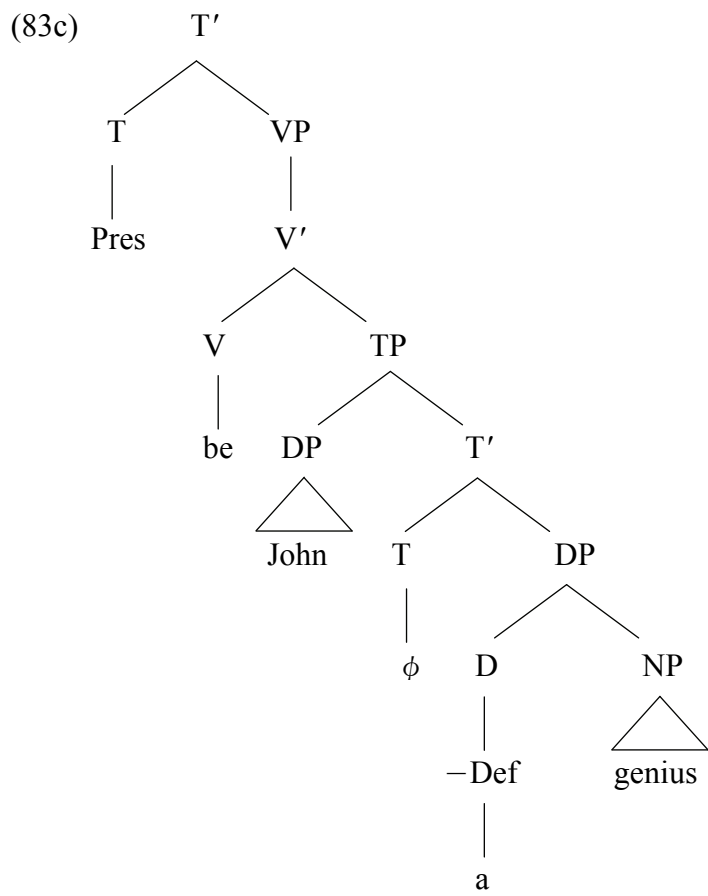
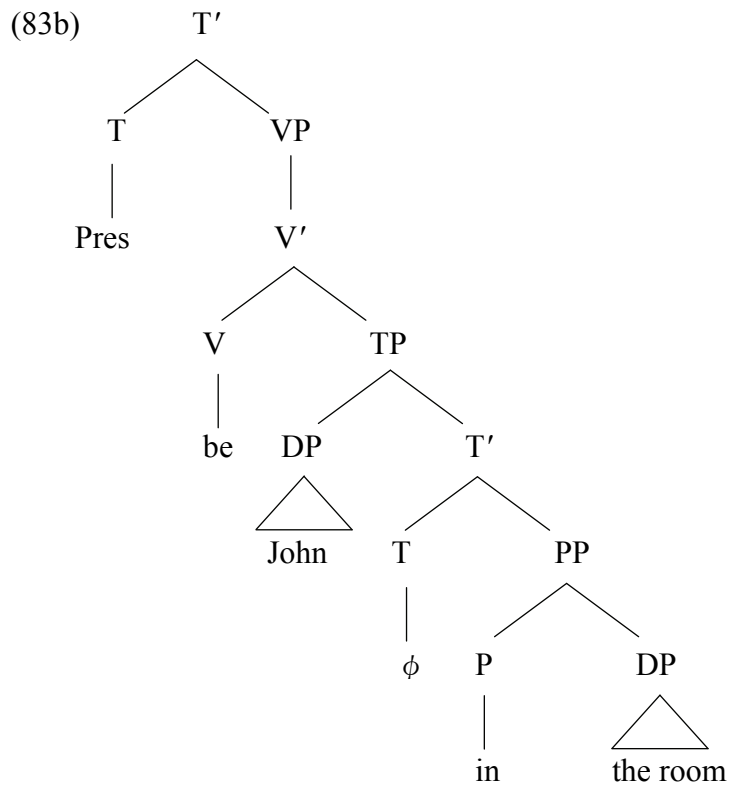
【問題 19】 (p. 64)

(83a)



(83a)

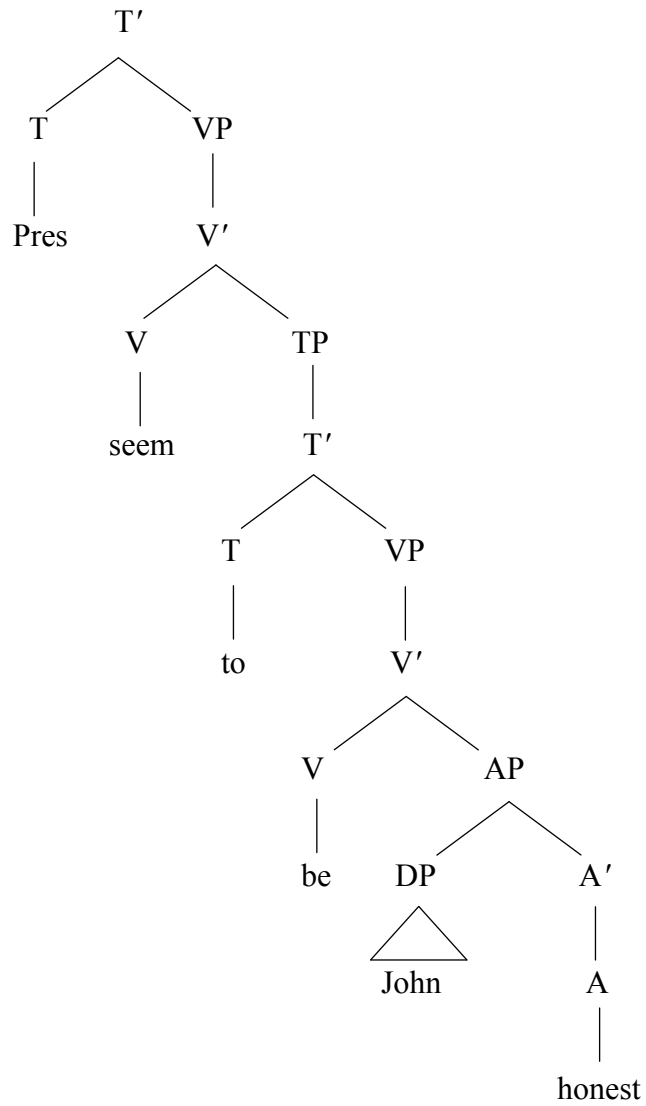




第3章 Move α 理論

【問題1】 (p. 73)

(9)



(9) の表層構造は、この深層構造から AP 指定部にある John を下部の TP 指定部を経由して、上部の TP 指定部に移動することによって派生される.)

【問題 2】 (p. 84)

(40a, b) の表層構造は、概略以下のようになっている。

- (40) a. [CP who does [TP John think [CP that [TP Mary saw t_1]]]]
b. [CP who does [TP John think [CP that [TP Bill said [CP that [TP Mary saw t_1]]]]]]

したがって、who の移動は、(40a) では循環節点 TP を二つ越え、(40b) では循環節点 TP を三つ越え、いずれも下接の条件違反となる。

【問題 3】 (p. 85)

(20a, b) の統語構造は、概略以下のようになっている。

- (20) a. [CP who₁ did [TP he read [DP the book [CP which₂ [TP t_2 interested t_1]]]]]]
b. [CP who₁ did [TP he believe [DP the claim [CP t'_1 that [TP John tricked t_1]]]]]]

(20a) では、who は interested の補部の位置から一気に上部の CP 指定部まで移動しなければならない。というのは、途中の関係節を構成する CP の指定部には、すでに which が存在するからである。この who の移動は循環節点を三つ (TP, DP, TP) 越える。よって、下接の条件違反となる。(20b) では、who は一度 claim の同格節を構成する CP の指定部に移動してから、上部の CP 指定部に移動できる。この場合、最初の移動は循環節点を一つ (TP) だけしか越えないので、下接の条件には違反しないが、次の上部の CP 指定部への移動では、循環節点を二つ (DP, TP) 越える。よって、下接の条件違反となる。

(22a, b) の統語構造は、概略以下のようになっている。

- (22) a. [CP what₁ is [TP [DP [CP t'_1 for [TP him to understand t_1]]] difficult]]
b. [CP what did [TP [DP [CP t'_1 that [TP John bought t_1]]] surprise Mary]]

(22a) では、what は一度主語節を構成する CP の指定部に移動してから、上部の CP 指定部に移動できる。この場合、最初の移動は循環節点を一つ (TP) だけしか越えないので、下接の条件には違反しないが、次の上部の CP 指定部への移動

では、循環節点を二つ (DP, TP) 越える (主語節全体は DP を構成することに留意せよ)。よって、下接の条件違反となる。同様に, (22b) では, *what* は一度主語節を構成する CP の指定部に移動してから, 上部の CP 指定部に移動できる。この場合, 最初の移動は循環節点を一つ (TP) だけしか越えないので, 下接の条件には違反しないが, 次の上部の CP 指定部への移動では, 循環節点を二つ (DP, TP) 越える。よって, 下接の条件違反となる。

(23b) の統語構造は, 概略以下のようになっている。

(23b) [CP *who*₁ did [TP [DP stories about *t*₁] terrify John]]

(23b) では, *who* は *about* の補部の位置から一気に上部の CP 指定部まで移動しなければならない。この *who* の移動は循環節点を二つ (DP, TP) 越える。よって, 下接の条件違反となる。

(37a, b) の統語構造は, 概略以下のようになっている。

(37) a. [CP to whom₁ does [TP John know [CP what books₂ [TP PRO to give *t*₂ *t*₁]]]]

b. [CP what books₁ does [TP John know [CP to whom₂ [TP PRO to give *t*₁ *t*₂]]]]

(37a) では, *to whom* は *give* の補部の位置から一気に上部の CP 指定部まで移動しなければならない。というのは, 途中の *know* の目的語節を構成する CP の指定部には, すでに *what books* が存在するからである。この *to whom* の移動は循環節点 TP を二つ越える。よって, 下接の条件違反となる。同様に, (37b) では, *what books* は *give* の補部の位置から一気に上部の CP 指定部まで移動しなければならない。というのは, 途中の *know* の目的語節を構成する CP の指定部には, すでに *to whom* が存在するからである。この *what books* の移動は循環節点 TP を二つ越える。よって, 下接の条件違反となる。

【問題 4】 (p. 88)

(42b) の深層構造は, 概略以下のようになっている。

DS: [C' C [TP you Past [VP see [DP a picture of who]]]]

この深層構造の *of who* に外置操作を適用すると、以下のような構造が得られる。

[C' C [TP you Past [VP [VP see [DP a picture t_1]] [of who]₁]]]

この構造から、*who* を CP 指定部へ移動すると以下の表層構造が得られる（厳密には、*Past* が C へ移動し、*Do-Support* の適用を受ける）。

[CP who₂ C [TP you Past [VP [VP see [DP a picture t_1]] [of t_2]₁]]]

この *who* の移動は、循環節点 TP を一つしか越えないので、下接の条件に違反しない。よって、この派生は文法的である。

【問題 5】 (p. 88)

(50a) の統語構造は、概略以下のようにになっている。

(50a) [CP who₁ was [TP [DP a picture of t_1] standing on the mantelpiece]]

この構造では、*who* は *of* の補部の位置から一気に上部の CP 指定部まで移動しなければならない。この *who* の移動は循環節点を二つ (DP, TP) 越える。よって、下接の条件違反となる。それに対して、(50b) の場合は、(50a) と異なり、以下に示す通り、*of whom* に外置操作を適用してから、CP 指定部に移動することができる。

DS: [C' C [T' was [VP [a picture of whom] standing on the mantelpiece]]]

↓ 外置

[C' C [T' was [VP [VP [a picture t_1] standing on the mantelpiece] of whom₁]]]

↓ 主語の TP 指定部への繰り上げ

[C' C [TP [a picture t_1]₂ was [VP [VP t_2 standing on the mantelpiece] of whom₁]]]

↓ *of whom* の CP 指定部への移動

[CP of whom₁ C [TP [a picture t_1]₂ was [VP [VP t_2 standing on the mantelpiece] t'_1]]]

この最後の of whom の CP 指定部への移動は、循環節点 TP を一つしか越えておらず、下接の条件に違反しない。よって、この派生は文法的である。

【問題 6】 (p. 92)

(60a) の関連する部分の統語構造は、概略以下のようになっている。

(60a) Mary isn't the same as [_{CP} OP₁ [_{TP} John believes [_{CP} t''₁ that [_{TP} Bill claimed [_{CP} t'₁ that [_{TP} she was t₁ five years ago]]]]]]]

この構造において、OP は一番上の CP 指定部に移動するのに、途中の CP 指定部に立ち寄ることによって、各移動ステップは循環節点 TP を一つしか越えておらず、下接の条件に違反しない。よって、この派生は文法的である。

(60b) の関連する部分の統語構造は、概略以下のようになっている。

(60b) *Mary isn't the same as [_{CP} OP₁ [_{TP} John believes [_{DP} Bill's claim [_{CP} t'₁ that [_{TP} she was t₁ five years ago]]]]]]]

この構造において、OP は一度 claim の同格節を構成する CP の指定部に移動してから、上部の CP 指定部に移動できる。この場合、最初の移動は循環節点を一つ (TP) だけしか越えないので、下接の条件には違反しないが、次の上部の CP 指定部への移動では、循環節点を二つ (DP, TP) 越える。よって、下接の条件違反となる。

(60c) の関連する部分の統語構造は、概略以下のようになっている。

(60c) *Mary isn't the same as [_{CP} OP₁ [_{TP} I wonder [_{CP} whether [_{TP} she was t₁ five years ago]]]]]

この文を下接の条件によって説明するためには、一つ新たな仮定を必要とする。それは、whether (または if) 節によって導かれる疑問節の CP 指定部は「脱出口」としては機能しない、ということである。この仮定の下では、上の構造におい

て、OP は was の補部の位置から一気に上部の CP 指定部まで移動しなければならない。この移動は循環節点 TP を二つ越える。よって、下接の条件違反となる。

【問題 7】 (p. 94)

(64a) の関連する部分の統語構造は、概略以下のようになっている。

(64a) It is this book [CP OP₁ that [TP I asked Bill [CP t''₁ φ [TP PRO to get his students
[CP t'₁ φ [TP PRO to read t₁]]]]]]]

この構造において、OP は一番上の CP 指定部に移動するのに、途中の CP 指定部に立ち寄ることによって、各移動ステップは循環節点 TP を一つしか越えておらず、下接の条件に違反しない。よって、この派生は文法的である。

(64b) の関連する部分の統語構造は、概略以下のようになっている。

(64b) *It is this book [CP OP₁ that [TP I accept [DP the argument [CP t'₁ that [TP John
should read t₁]]]]]]]

この構造において、OP は一度 argument の同格節を構成する CP の指定部に移動してから、上部の CP 指定部に移動できる。この場合、最初の移動は循環節点を一つ (TP) だけしか越えないので、下接の条件には違反しないが、次の上部の CP 指定部への移動では、循環節点を二つ (DP, TP) 越える。よって、下接の条件違反となる。

(64c) の関連する部分の統語構造は、概略以下のようになっている。

(64c) *It is this book [CP OP₁ that [TP I wonder [CP who₂ [TP t₂ read t₁]]]]]

この構造において、OP は read の補部の位置から一気に上部の CP 指定部まで移動しなければならない。というのは、途中の wonder の目的語節を構成する CP の指定部には、すでに who が存在するからである。この OP の移動は循環節点 TP を二つ越える。よって、下接の条件違反となる。

【問題 8】 (p. 94)

(69a, b, c) の関連する部分の統語構造は、概略以下のようになっている。

- (69) a. I found a book [CP OP₁ for [TP you to arrange [CP t''₁ for [TP Mary to tell Bill
[CP t'₁ φ [TP PRO to give t₁ to Tom]]]]]]]
b. I found a book [CP OP₁ for [TP you to insist [CP t'₁ that [TP Bill should read t₁]]]]]
c. I found a book [CP OP₁ for [TP you to insist [CP t''₁ that [TP Bill tell Mary [CP t'₁
that [TP Tom should read t₁]]]]]]]]]

これらの構造において、OP は一番上の CP 指定部に移動するのに、途中の CP 指定部に立ち寄ることによって、各移動ステップは循環節点 TP を一つしか越えておらず、下接の条件に違反しない。よって、これらの派生は文法的である。

(69d) の関連する部分の統語構造は、概略以下のようになっている。

- (69d) *I found a book [CP OP₁ for [TP you to insist on [DP the principle [CP t'₁ that
[TP Tom should read t₁]]]]]]]

この構造において、OP は一度 principle の同格節を構成する CP の指定部に移動してから、上部の CP 指定部に移動できる。この場合、最初の移動は循環節点を一つ (TP) だけしか越えないので、下接の条件には違反しないが、次の上部の CP 指定部への移動では、循環節点を二つ (DP, TP) 越える。よって、下接の条件違反となる。

【問題 9】 (p. 96)

(72a) の関連する部分の統語構造は、概略以下のようになっている。

- (72a) The job is important enough [CP OP₁ for [TP us to order them [CP t''₁ φ [TP PRO to
insist [CP t'₁ that [TP the committee offer t₁ to John]]]]]]]]]

この構造において、OP は一番上の CP 指定部に移動するのに、途中の CP 指定部に立ち寄ることによって、各移動ステップは循環節点 TP を一つしか越えてお

らず、下接の条件に違反しない。よって、この派生は文法的である。

(72b) の関連する部分の統語構造は、概略以下のようになっている。

(72b) *The job is important enough [_{CP} OP₁ for [_{TP} us to insist on [_{DP} the principle
[_{CP} t'₁ that [_{TP} they should offer t₁ to John]]]]]]

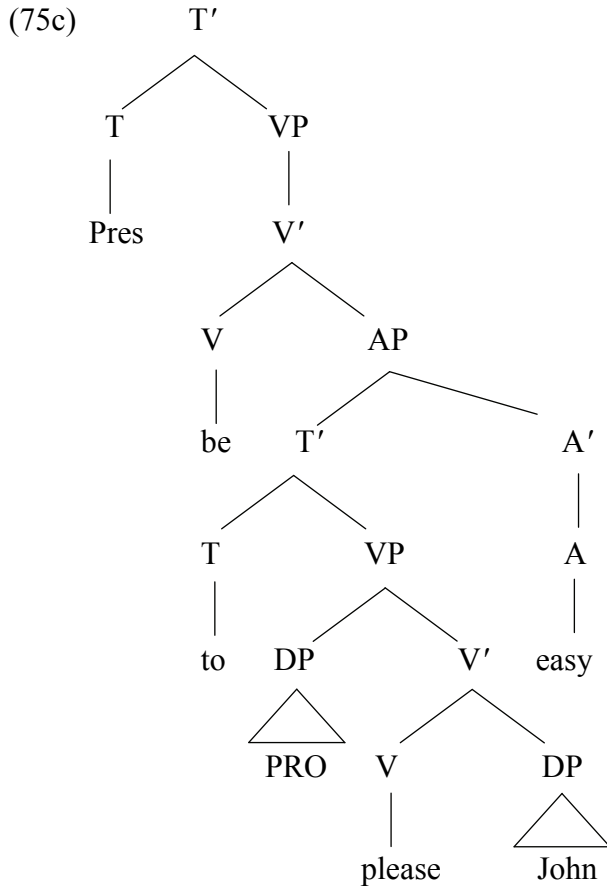
この構造において、OP は一度 principle の同格節を構成する CP の指定部に移動してから、上部の CP 指定部に移動できる。この場合、最初の移動は循環節点を一つ (TP) だけしか越えないので、下接の条件には違反しないが、次の上部の CP 指定部への移動では、循環節点を二つ (DP, TP) 越える。よって、下接の条件違反となる。

(73) の派生について、まず、who が移動する前の統語構造は、概略以下のようになる。

(73) [C' C [_{TP} the job was good enough [_{CP} OP₁ for [_{TP} us to offer t₁ to who]]]]

この構造から、who を主節の CP 指定部に移動するのだが、この場合 who は一気に上部の CP 指定部まで移動しなければならない。というのは、途中の CP の指定部には、すでに OP が存在するからである。したがって、この who の移動は循環節点 TP を二つ越える。よって、下接の条件違反となる。

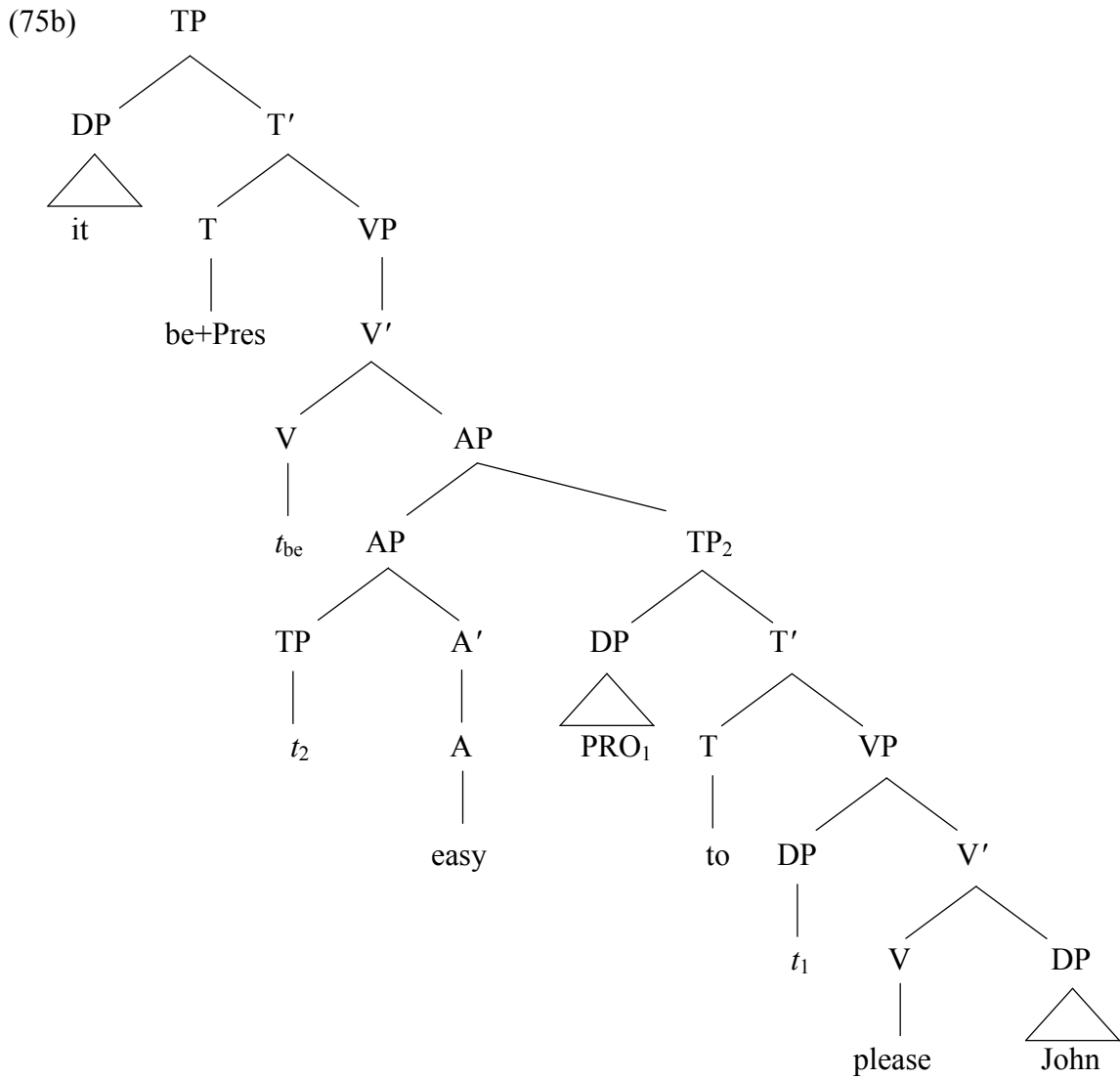
【問題 10】 (p. 97)



この深層構造から表層構造を導き出すためには、PRO をすぐ上の TP 指定部へ移動し、さらにこの TP 全体を主節の TP 指定部に移動させる。また、be は T へ移動し、Pres と合体する。

【問題 11】 (p. 97)

(75b) を派生するためには、上の深層構造から、まず、easy の指定部の位置にある TP を AP に右方付加する。そして、主節の TP 指定部に it を挿入する。



【問題 12】 (p. 99)

(80a, b) の関連する部分の統語構造は、概略以下のようにになっている。

- (80) a. John is easy (for us) [_{CP} OP₁ φ [_{TP} PRO to convince Bill [_{CP} t'₁ φ [_{TP} PRO to do business with t₁]]]]
- b. John is easy (for us) [_{CP} OP₁ φ [_{TP} PRO to convince Bill [_{CP} t'₁ that [_{TP} he should meet t₁]]]]]

これらの構造において、OP は一番上の CP 指定部に移動するのに、途中の CP

指定部に立ち寄ることによって、各移動ステップは循環節点 TP を一つしか越えておらず、下接の条件に違反しない。よって、これらの派生は文法的である。

(80c) の関連する部分の統語構造は、概略以下のようになっている。

(80c) *John is easy (for us) [_{CP} OP₁ φ [_{TP} PRO to convince Bill of [_{DP} the need [_{CP} t'₁ for [_{TP} him to meet t₁]]]]]]

この構造において、OP は一度 need の補部節を構成する CP の指定部に移動してから、上部の CP 指定部に移動できる。この場合、最初の移動は循環節点を一つ (TP) だけしか越えないので、下接の条件には違反しないが、次の上部の CP 指定部への移動では、循環節点を二つ (DP, TP) 越える。よって、下接の条件違反となる。

【問題 13】 (p. 100)

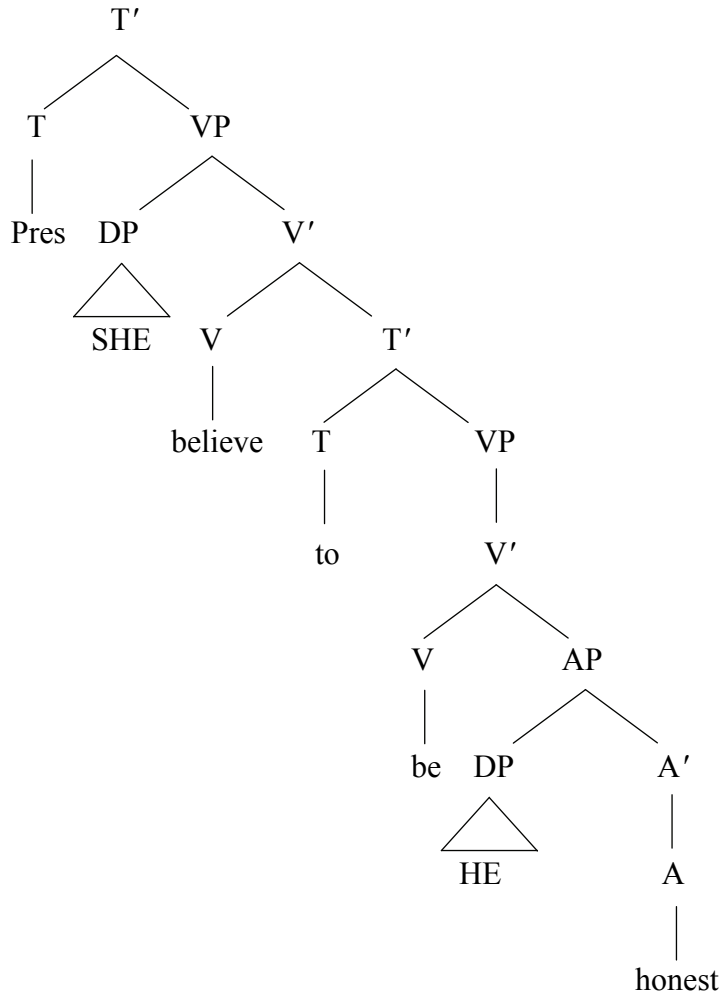
(84) の派生について、まず、wh 句 what sonatas や関係節を先導する OP が移動する前の統語構造は、概略以下のようになる。

(84) a. [_{C'} C [_{TP} this violin₁ is easy [_{CP} OP₁ φ [_{TP} PRO to play what sonatas on t₁]]]]
b. the sonatas [_{C'} C [_{TP} this violin₁ is easy [_{CP} OP₁ φ [_{TP} PRO to play OP₂ on t₁]]]]

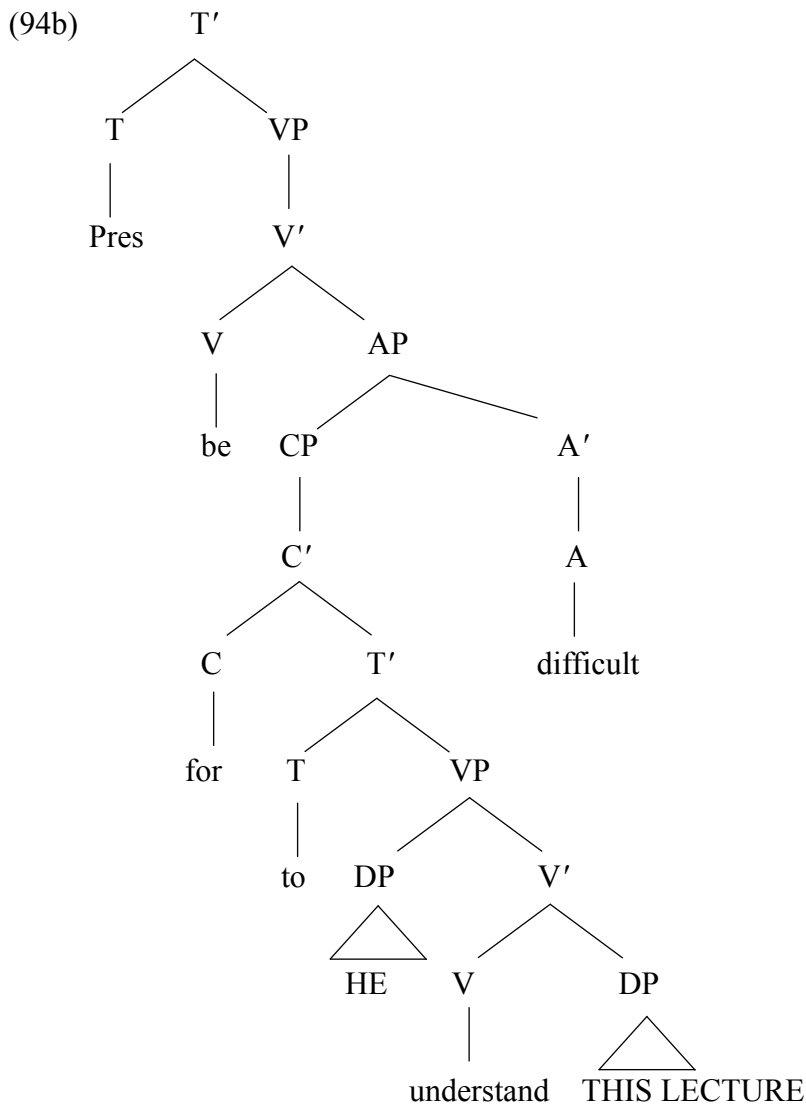
これらの構造から、what sonatas と OP₂ を上部の CP 指定部に移動するのだが、この場合は what sonatas と OP₂ は一気に上部の CP 指定部まで移動しなければならない。というのは、途中の CP の指定部には、すでに OP₁ が存在するからである。したがって、これらの操作詞の移動は循環節点 TP を二つ越える。よって、下接の条件違反となる。

【問題 14】 (p. 106)

(94a)



この深層構造から、SHE を上部の TP 指定部に、そして、HE を下部の TP 指定部に移動することによって、表層構造が得られる。それぞれの TP 指定部の位置で、SHE は主格を、そして HE は、他動詞 believe のすぐ後ろに位置することから、目的格を付与される。



この深層構造から、APの指定部にあるCPを上部のTP指定部に、そして、HEを下部のTP指定部に移動することによって、表層構造が得られる。HEは、前置詞的Cのforのすぐ後ろに位置することから、目的格を付与される。

【問題 15】 (p. 107)

(96a) For John to understand this lecture is difficult.

上の構造から明らかな通り、Johnは下部のTP指定部に移動することによって、

for から目的格を付与される。また、this lecture は他動詞 understand のすぐ後ろに位置するので、目的格を付与される。

(96b) *John to understand this lecture is difficult.

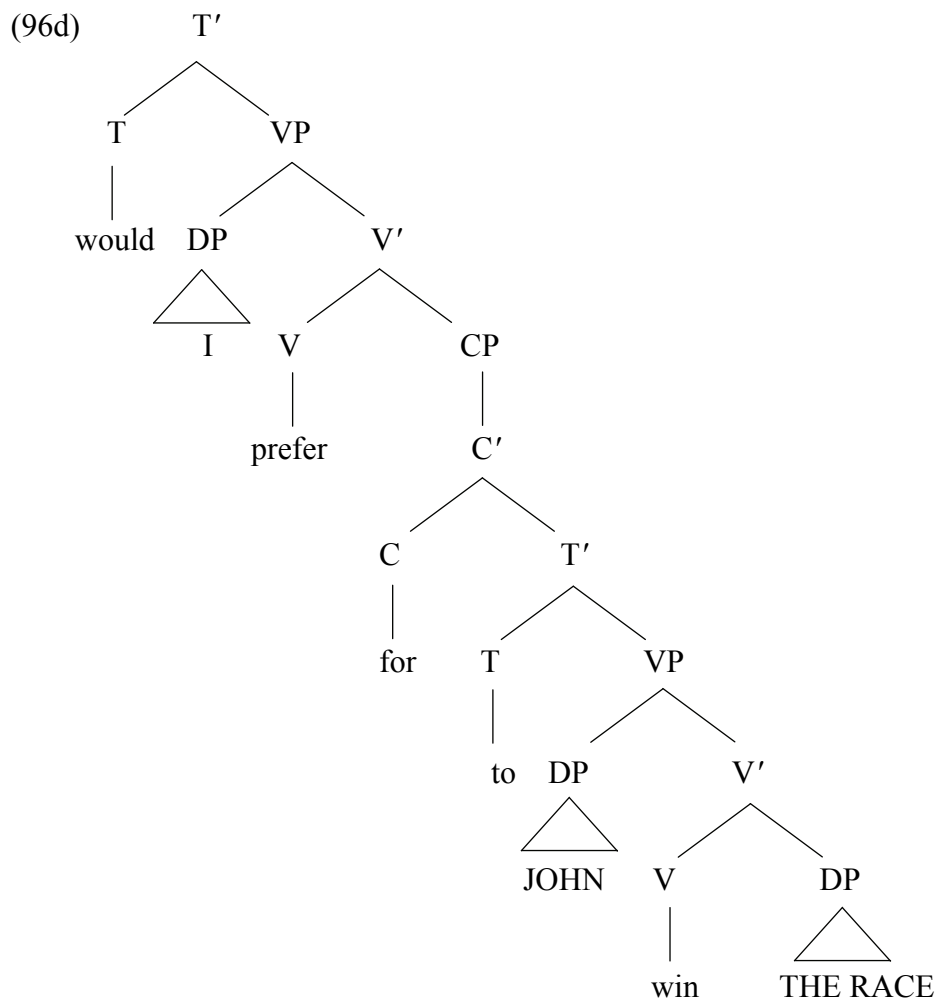
この文が非文法的なのは、(96a) と違い、John に格が付与されないからである。

(96c) I believe John to be honest.

上の (94a) の構造から明らかな通り、I は上部の TP 指定部に移動することによって、主格を付与され、John は下部の TP 指定部に移動することによって、他動詞 believe のすぐ後ろに位置し、目的格を付与される。

(96d) I'd prefer for John to win the race.

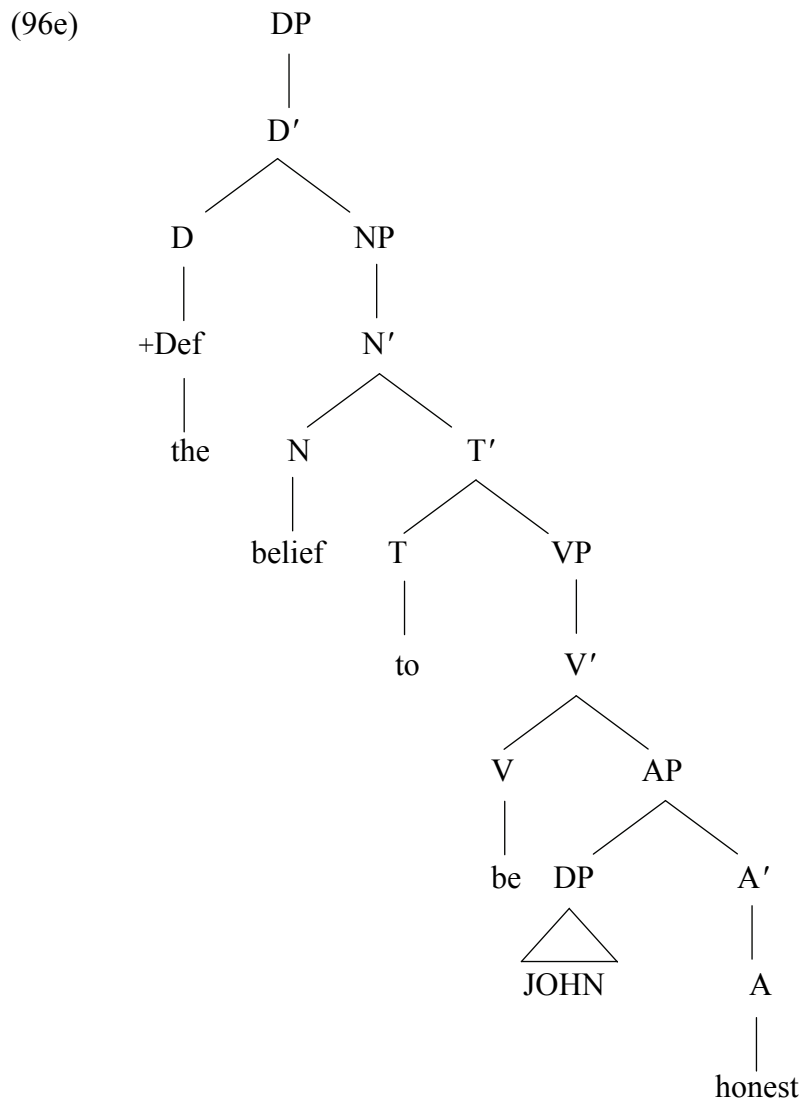
この文の深層構造は、概略以下のようにになっている。



この深層構造から、I は上部の TP 指定部に移動することによって、主格を付与され、JOHN は下部の TP 指定部に移動することによって、前置詞的 C の for のすぐ後ろに位置し、目的格を付与される。また、THE RACE は他動詞 win のすぐ後ろに位置するので、目的格を付与される。

(96e) *the belief John to be honest

この名詞句の深層構造は、概略以下のようにになっている。



この深層構造から、JOHN を TP 指定部に移動することによって表層構造が得られるが、この位置で、JOHN は格付与されない（名詞 belief は格付与に参画できず、当該の TP は不定詞節なので、主格が付与されることはない）。よって、格フィルターに違反することになる。

(96f) the belief that John is honest

この名詞句では、(96e) とは異なり、John は時制節の TP 指定部に位置しており、主格を付与される。

(96g) *I am proud John to be honest.

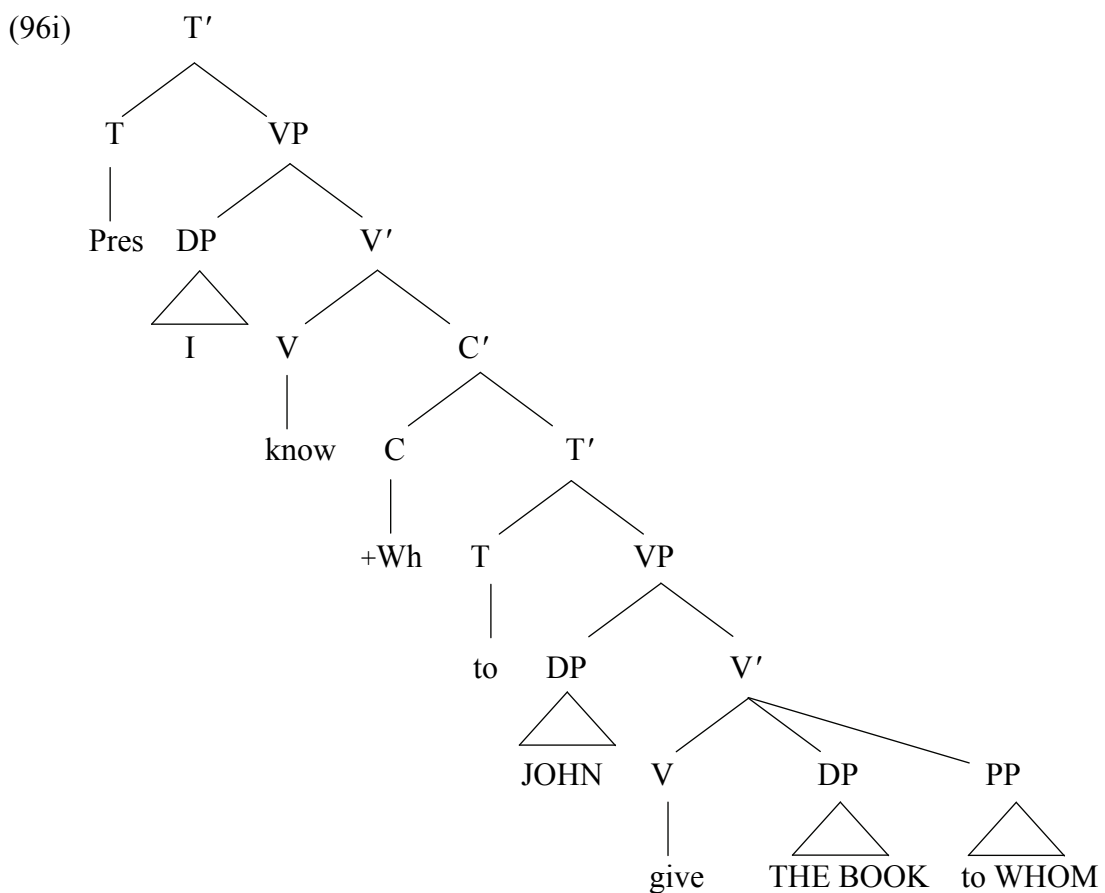
この文において, John は, (96e) の場合と同様, 下部の TP 指定部に移動するが, この位置で, John は格付与されない (形容詞 proud は格付与に参画できず, 当該の TP は不定詞節なので, 主格が付与されることはない). よって, 格フィルターに違反することになる.

(96h) I am proud that John is honest.

この文では, (96g) とは異なり, John は時制節の TP 指定部に位置しており, 主格を付与される.

(96i) *I know to whom John to give the book.

この文の深層構造は, 概略以下のようにになっている.



この深層構造から、I を上部の TP 指定部に、そして JOHN を下部の TP 指定部に、さらに to WHOM を CP 指定部に移動することによって、表層構造が得られるが、JOHN は移動した TP 指定部の位置で格を付与されない (know は他動詞と考えられるが、to whom が介在するために、JOHN に目的格を付与できない)。よって、格フィルターに違反することになる。

(96j) I know to whom John is to give the book.

この文では、(96i) とは異なり、John は時制節の TP 指定部に位置しており、主格を付与される。

【問題 16】 (p. 110)

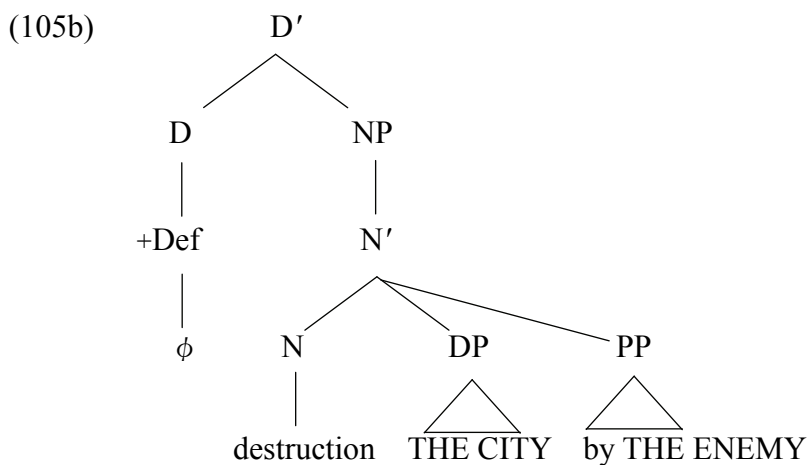
(103) John is believed to like Mary.

DS: [TP Δ be+Pres [VP believe+en [CP [TP Δ to [VP John like Mary]]]]]

SS: [TP John be+Pres [VP believe+en [CP [TP t' to [VP t like Mary]]]]]

上の深層構造から、John を下部の TP 指定部を経由して、上部の TP 指定部に移動することによって、表層構造が得られる。John は元の位置では、格付与されないし、下部の TP 指定部の位置も、他動詞 believe に受動形態素 -en がくっ付いているため、believe の格付与能力が奪われ、格付与される位置ではなくなっている。そのため、John は、さらに主節の TP 指定部に移動し、そこで主格を与えられる必要がある。

【問題 17】 (p. 112)



この深層構造から, THE CITY は of 挿入によって目的格を与えられる代わりに, DP 指定部へ移動することによって, 所有格を付与される.

【問題 18】 (p. 117)

(97) のところで説明した通り, (115b) では, seem は自動詞なので格付与能力を有していないので, Bill は格付与されないことになり, 格フィルターに違反する.

【問題 19】 (p. 120)

(123) の派生は, 概略以下のようにになっている.

(123) [CP who do [TP you think [CP t' that [TP Mary saw t yesterday]]]]

saw の補部にある痕跡 t は SSC にも TSC にも違反しない. というのは, 途中の CP 指定部にある痕跡 t' が t の先行詞と見なすことができ, (122) の免除条項によって主語 Mary も TP も介在するとは見なされないからである. t' も SSC にも TSC にも違反しない. というのは, 主節の CP 指定部にある痕跡 who が t' の先行詞と見なされ, (122) の免除条項によって主語 you も TP も介在するとは見なされないからである.

第4章 束縛理論 (Binding Theory)

【問題1】 (p. 129)

- (1) a. John hates himself.
b. *John knows that [Mary hates himself].
- (2) a. John and Mary hate each other.
b. *John and Mary know that [Bill hates each other].
- (3) a. *John₁ hates him₁.
b. John₁ knows that [Mary hates him₁].

(1b, 2b) では, himself/each other とその格付与者 hate を含む最小の節は, かつこでくくられた埋め込み節であるが, その中に先行詞が含まれないので, (10a) により, 非文法的となる. 同様に, (3b) では, him とその格付与者 hate を含む最小の節は, かつこでくくられた埋め込み節であるが, その中に先行詞が含まれないので, (10b) により, 文法的となる.

- (5) a. *The candidates expected [John to vote for themselves/each other].
b. The candidates expected [themselves/each other to win].
- (6) a. The candidates₁ expected [John to vote for them₁].
b. *The candidates₁ expected [them₁ to win].

(5a) では, themselves/each other とその格付与者 for を含む最小の節は, かつこでくくられた埋め込み節であるが, その中に先行詞が含まれないので, (10a) により, 非文法的となる. これに対して, (5b) では, themselves/each other とその格付与者 expect を含む最小の節は, 文全体であるが, その中に先行詞が含まれるので, (10a) により, 文法的となる. 同様に, (6a) では, them とその格付与者 for を含む最小の節は, かつこでくくられた埋め込み節であるが, その中に先行詞が含まれないので, (10b) により, 文法的となる. これに対して, (6b) では, them とその格付与者 expect を含む最小の節は, 文全体であるが, その中に先行詞が含まれるので, (10b) により, 非文法的となる.

- (8) a. *The candidates expected [that themselves/each other would win].

- b. The candidates₁ expected [that they₁ would win].

(8a) では, themselves/each other とその格付与者 T を含む最小の節は, かつこでくくられた埋め込み節であるが, その中に先行詞が含まれないので, (10a) により, 非文法的となる. 同様に, (8b) では, him とその格付与者 T を含む最小の節は, かつこでくくられた埋め込み節であるが, その中に先行詞が含まれないので, (10b) により, 文法的となる.

【問題 2】 (p. 132)

- (1) a. John₁ hates himself₁.
b. *John₁ knows that [Mary hates himself₁].
- (2) a. John and Mary₁ hate each other₁.
b. *John and Mary₁ know that [Bill hates each other₁].
- (3) a. *John₁ hates him₁.
b. John₁ knows that [Mary hates him₁].

(1a, 2a) では, 照応詞 himself と each other の領域 D は文全体であるが, その領域において, これらの照応詞はその先行詞である John および John and Mary によって束縛される (すなわち, 同一指標を持ち, かつ先行詞によって c 統御される) ので, (18A) により, 文法的である. これに対して, (1b, 2b) では, 照応詞 himself と each other は, その先行詞である John および John and Mary によって束縛されるものの, それらの領域 D 内で束縛されていないので, (18A) により, 非文法的となる. これとは逆に, (3a) では, 代名詞 him の領域 D は文全体であるが, その領域において, この代名詞はその先行詞である John によって束縛されるので, (18B) により, 非文法的である. これに対して, (3b) では, 代名詞 him は, その先行詞である John によって束縛されるものの, その領域 D 内では自由なので, (18B) により, 文法的となる.

- (5) a. *The candidates₁ expected [John to vote for themselves/each other₁].
b. The candidates₁ expected [themselves/each other₁ to win].
- (6) a. The candidates₁ expected [John to vote for them₁].

b. *The candidates₁ expected [them₁ to win].

(5a) では、照応詞 *themselves* と *each other* は、その先行詞である *the candidates* によって束縛されるものの、それらの領域 D 内で束縛されていないので、(18A) により、非文法的となる。これに対して、(5b) では、照応詞 *themselves* と *each other* の領域 D は、その格付与者を含む最小の節であることから、文全体となるが、その領域において、これらの照応詞はその先行詞である *the candidates* によって束縛されるので、(18A) により、文法的である。これとは逆に、(6a) では、代名詞 *them* は、その先行詞である *the candidates* によって束縛されるものの、それらの領域 D 内では自由なので、(18B) により、文法的となる。これに対して、(6b) では、代名詞 *them* の領域 D は、その格付与者を含む最小の節であることから、文全体となるが、その領域において、その先行詞である *the candidates* によって束縛されるので、(18B) により、非文法的となる。

(8) a. *The candidates₁ expected [that themselves/each other₁ would win].

b. The candidates₁ expected [that they₁ would win].

(8a) では、照応詞 *themselves* と *each other* は、その先行詞である *the candidates* によって束縛されるものの、それらの領域 D 内で束縛されていないので、(18A) により、非文法的となる。これに対して、(8b) では、代名詞 *they* は、その先行詞である *the candidates* によって束縛されるものの、その領域 D 内では自由なので、(18B) により、文法的となる。

(11) a. *John₁ hates him₁.

b. John₁'s mother hates him₁.

(11b) では、*him* の領域 D は文全体であるが、*him* は *John* によって c 統御されな
いため、自由であるので、(18B) により、文法的となる。

(13) a. John and Mary₁ know each other₁'s friends.

b. *Each other₁'s friends know John and Mary₁.

(14) *[For themselves/each other₁ to win] would be unfortunate for John and Mary₁.

(13a) では、照応詞 **each other** の領域 D は文全体であるが、その領域において、この照応詞はその先行詞である **John and Mary** によって束縛されるので、(18A) により、文法的である。これに対して、(13b) では、**each other** の領域 D は文全体であるが、**each other** は **John and Mary** によって c 統御されないため、束縛されないので、(18A) により、非文法的となる。(14) では、**themselves/each other** の領域 D はかっこでくくった主語節であり、また、**each other** は **John and Mary** によって c 統御されないため、束縛されないので、(18A) により、非文法的となる。

【問題 3】 (p. 134)

- (20) a. Bill persuaded John and Mary₁ [PRO₁ to kill themselves/each other₁].
b. *Bill persuaded John and Mary₁ [PRO₁ to kill them₁].

(20a) では、照応詞 **themselves/each other** の領域 D はかっこでくくられた埋め込み節であるが、その領域において、この照応詞は束縛される (PRO と同一指標辞を持ち、かつ c 統御される) ので、(18A) により、文法的である。これに対して、(20b) では、代名詞 **them** の領域 D はかっこでくくられた埋め込み節であるが、その領域において、この代名詞は自由ではない (PRO と同一指標辞を持ち、かつ c 統御される) ので、(18B) により、非文法的である。

(21a) の文では、以下のように指標辞がふられる。

- (21) a. *John and Mary₁ persuaded Bill₂ [PRO₂ to kill themselves/each other₁]
b. John and Mary₁ persuaded Bill₂ [PRO₂ to kill them₁]

(21a) では、照応詞 **themselves/each other** の領域 D はかっこでくくられた埋め込み節であるが、その領域において、この照応詞は束縛されていないので、(18A) により、非文法的である。これに対して、(21b) では、代名詞 **them** の領域 D はかっこでくくられた埋め込み節であるが、その領域において、この代名詞は自由なので、(18B) により、文法的である。

- (22) a. Which men₁ did John expect [_{TP} t₁ would kill each other₁]?

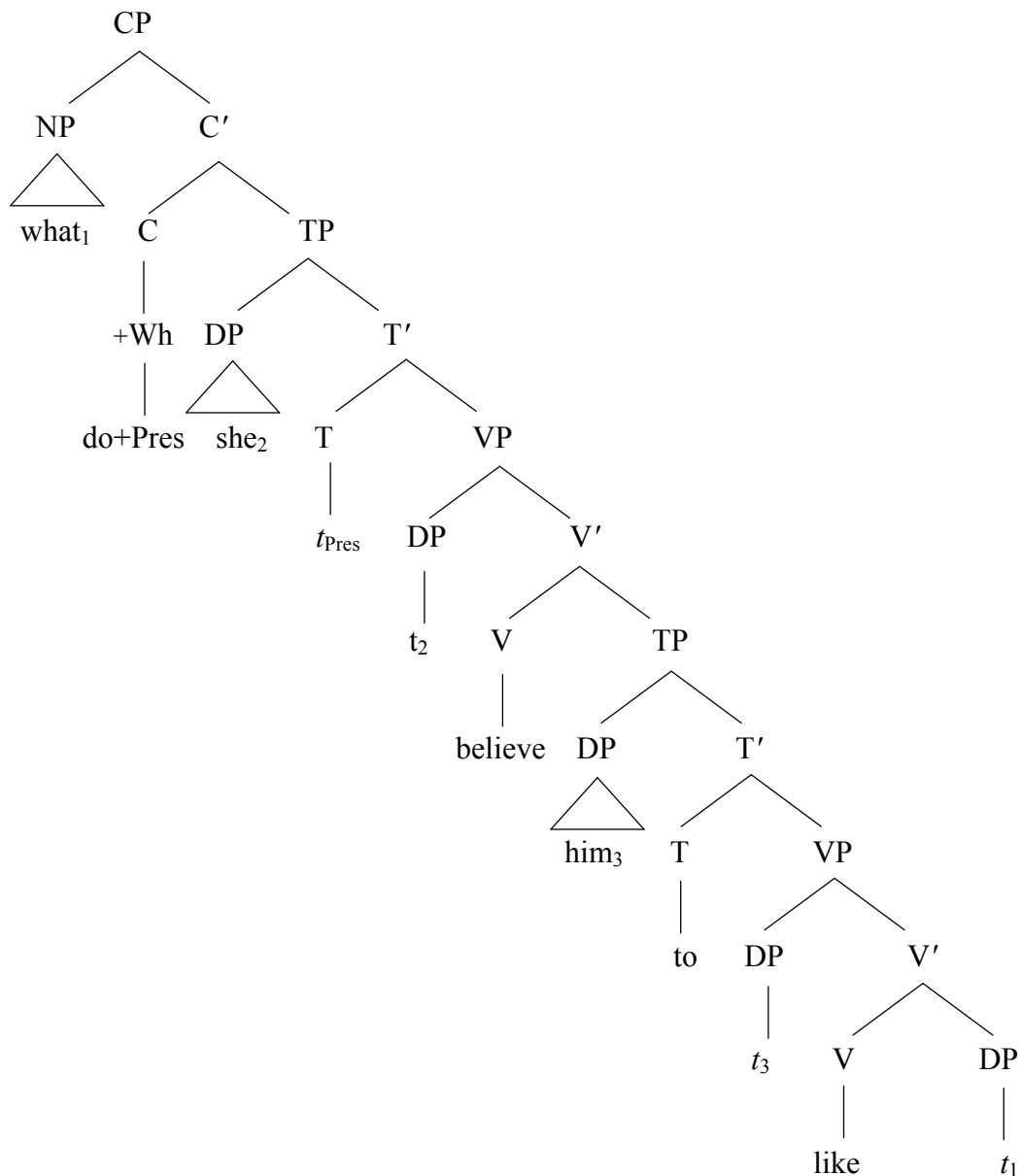
b. *Which men₁ did John expect [_{TP} t₁ would kill them₁]?

(22a) において、もし照応詞 *each other* の先行詞を *which men* と見なすと、この先行詞は(15ii)で述べられている照応詞とその格付与者を含む最小の節、すなわち、埋め込みの時制節に含まれていないので、(15) の条件に違反することとなる。しかし、この場合は、*which men* の痕跡 t_1 を照応詞の先行詞と見なせば、この照応関係が成り立つことが(15)の条件によって正しく捉えることができる。これに対して、(22b) で、仮に *them* の先行詞を t_1 と見なせば、*them* は t_1 によって c 統御され、かつ t_1 は *them* とその格付与者を含む最小の節である埋め込みの時制節に含まれるので、(12) の条件により、その照応関係が成り立たないこと、そして、*them* は t_1 の先行詞である *which men* を指せないことを正しく導き出すことができる。しかしながら、もし *them* の先行詞を *which men* と見なした場合には、*which men* は *them* とその格付与者を含む最小の節である埋め込みの時制節に含まれないので、*them* が *which men* を指し示すことができることになってしまう。

これに対して、束縛条件 (A) (B) に従えば、(22a) では、照応詞 *each other* の領域 D はかっこでくくられた埋め込み節であるが、その領域において、この照応詞は束縛される (t_1 と同一指標辞を持ち、かつ c 統御される) ので、(18A) により、文法的である。これに対して、(22b) では、代名詞 *them* の領域 D はかっこでくくられた埋め込み節であるが、その領域において、この代名詞は自由ではない (t_1 と同一指標辞を持ち、かつ c 統御される) ので、(18B) により、非文法的である。

【問題 4】 (p. 144)

(42) What does she believe him to like?



この構造において、*believe* はその補部に TP を選択することによって、*him* を統率し、目的格を付与することができる。しかしながら、この仮定のもとでは、*what* の主節の CP 指定部への移動は、途中に立ち寄るべき脱出口がないために、一度に循環節点である TP を二つ超えてしまい、誤って、下接の条件違反とされてしまう。

【問題 5】 (p. 147)

(47a) John₁ seems [_{TP} t₁ to like Bill]

この文において、DP 痕跡 t₁ の統率範疇は、その語彙統率者が seem であることから、文全体となる。その領域において、t₁ は束縛されるので、束縛条件 (45A) を満たす。

(47b) *John₁ seems [_{TP} Bill to like t₁]

この文において、DP 痕跡 t₁ の統率範疇は、その語彙統率者が like であることから、埋め込み節の TP となる。その領域において、t₁ は自由なので、束縛条件 (45A) に違反する。

(47c) John₁ is believed [_{TP} t₁ to be competent]

この文において、DP 痕跡 t₁ の統率範疇は、その語彙統率者が believed であることから、文全体となる。その領域において、t₁ は束縛されるので、束縛条件 (45A) を満たす。

(45d) *John₁ is believed [_{TP} t₁ is competent]

この文において、DP 痕跡 t₁ の統率範疇は、その語彙統率者が埋め込み節の T 内にある AGR であることから、埋め込み節の TP となる。その領域において、t₁ は自由なので、束縛条件 (45A) に違反する。

【問題 6】 (p. 149)

(49a) *We₁ heard [_{DP} their stories about each other₁]

照応詞 each other にとっての統率範疇は、その語彙統率者 about と主語 their を含

む最小の範疇なので、かっこでくくられた DP ということになる。この統率範疇において、each other は束縛されていないので、束縛条件 (45A) に違反する。

(49b) [TP We₁ heard some stories about each other₁]

照応詞 each other にとっての統率範疇は、その語彙統率者 about と主語 we を含む最小の範疇なので、かっこでくくられた主節全体の TP ということになる。この統率範疇において、each other は束縛されているので、束縛条件 (45A) を遵守している。

(50a) John₁ saw [DP my picture of him₁]

代名詞 him にとっての統率範疇は、その語彙統率者 of と主語 my を含む最小の範疇なので、かっこでくくられた DP ということになる。この統率範疇において、him は自由なので、束縛条件 (45B) を遵守している。

(50b) *[TP John₁ saw a picture of him₁]

代名詞 him にとっての統率範疇は、その語彙統率者 of と主語 John を含む最小の範疇なので、かっこでくくられた主節全体の TP ということになる。この統率範疇において、him は自由ではないので、束縛条件 (45B) に違反している。

【問題 7】 (p. 152)

(52) *John and Mary₁ know that [Bill hates each other₁].

この例文では、照応詞 each other は主格を有していないので、NIC がこの文の非文法性を説明することはない。よって、この例文は、each other とその先行詞である John and Mary の間に Bill という主語が介在することから、SSC 違反であると説明される。

【問題 8】 (p. 153)

(55) They₁ expected that pictures of each other₁ (each other₁'s pictures) would be on sale.

この文は、TSC を仮定すると、each other とその先行詞である they の間に時制節が介在するので、TSC により、照応関係が成り立たないことになってしまう。これに対して、NIC を仮定した場合、each other は主格を有していないので、NIC によって当該の照応関係が制限されることはない。また、each other と they の間に主語も介在しないので、SSC も遵守している。

(56) a. We₁ thought that pictures of each other₁ would be on sale.

b. *We₁ thought that John's pictures of each other₁ would be on sale.

これらの例文では、照応詞 each other は主格を有していないので、NIC はこの文の非文法性を説明することはない。(56a) では、each other とその先行詞である we の間に主語が介在していないので、SSC を遵守しているが、(56b) では、each other と we の間に John という主語が介在することから、SSC 違反であると説明される。

【問題 9】 (p. 153)

(55) They₁ expected that [TP pictures of each other₁ (each other₁'s pictures) would be on sale]

(56a) We₁ thought that [TP pictures of each other₁ would be on sale]

この二つの文において、照応詞 each other にとっての統率範疇は、その語彙統率者 of と埋め込みの時制節内にある SUBJECT の AGR を含む最小の範疇なので、かっこでくくられた埋め込みの TP ということになる。この統率範疇において、each other は束縛されていないので、誤って、束縛条件 (45A) に違反することとなる。

【問題 10】 (p. 155)

(51) a. *The candidates₁ expected that [TP themselves/each other₁ would win]

b. The candidates₁ expected that [TP they₁ would win].

この二つの文において、照応詞 *themselves/each other* と代名詞 *they* にとっての統率範疇は、その語彙統率者であり、かつ SUBJECT でもある、埋め込みの時制節内の AGR を含む最小の範疇なので、かっこでくくられた埋め込みの TP ということになる。この場合、当該の AGR はこれらの照応詞と代名詞にとって、m 統御関係が成り立ち、i 内部の i 条件にも違反しないので、利用可能である。この統率範疇において、*themselves/each other* は束縛されていないので、束縛条件 (45A) に違反し、*they* は自由なので、束縛条件 (45B) を遵守している。

(63) a. [TP they₁ (AGR₁) think it₂ (ARG₂) is a pity [CP₂ that [DP₃ pictures of each other₁] (AGR₃) are hanging on the wall]]

b. *They₁ think [TP he₂ (AGR₂) said that [DP₃ pictures of each other₁] (AGR₃) are hanging on the wall]

(63a) において、照応詞 *each other* の統率範疇を決定しなければならないが、まず、AGR₃ は *each other* にとって利用可能ではない。というのは、AGR₃ と *each other* に同一指標辞をふると、i 内部の i 条件に違反するからである。さらに、it₂ および AGR₂ も *each other* にとって利用可能ではない。というのは、仮定により、it₂ は後続の *that* 節と同一指標辞をふられているために、it₂ および AGR₂ と *each other* に同一指標辞をふると、i 内部の i 条件に違反するからである。したがって、*each other* にとって利用可能な SUBJECT は、they₁ または AGR₁ となり、その統率範疇は、主節全体の TP ということになる。その統率範疇の中で、*each other* は束縛されるので、束縛条件 (45A) を遵守している。これに対して、(63b) では、*each other* にとって AGR₃ は利用可能ではないが、he₂ または AGR₂ が利用可能な SUBJECT であり、したがって、その統率範疇は、埋め込み節の TP ということになる。その統率範疇の中で、*each other* は束縛されていないので、束縛条件 (45A) に違反している。

(64) a. *They₁ think [TP it₂ (AGR₂) bothered each other₁ [CP₂ that ...]]

- b. *He₁ thinks [TP it₂ (AGR₂) bothered himself₁ [CP₂ that ...]]
 c. He₁ thinks [TP it₂ (AGR₂) bothered him₁ [CP₂ that ...]]

(64a, b) において、照応詞 *each other* と *himself* にとって it₂ または AGR₂ が利用可能な SUBJECT である。よって、その統率範疇は、埋め込み節の TP ということになる。その統率範疇の中で、*each other/himself* は束縛されていないので、束縛条件 (45A) に違反している。同様に、(64c) では、代名詞 *him* にとって it₂ または AGR₂ が利用可能な SUBJECT である。よって、その統率範疇は、埋め込み節の TP ということになる。その統率範疇の中で、*him* は自由なので、束縛条件 (45B) を遵守している。

- (65) a. [TP They₁ (AGR₁) think there₂ (AGR₂) are [DP₂ some letters of each other₁] at the post office]
 b. *They₁ think [TP he₂ (ARG₂) saw some letters for each other₁ at the post office]

(65a) では、*each other* にとって、*there*₂ および AGR₂ は利用可能ではない。というのは、*there*₂ は *some letters of each other* と人称・性・数において一致しているので同一指標辞を持っているが、そのために、*there*₂ および AGR₂ と *each other* に同一指標辞をふると、i 内部の i 条件に違反するからである。したがって、*each other* にとって利用可能な SUBJECT は、*they*₁ または AGR₁ となり、その統率範疇は、主節全体の TP ということになる。その統率範疇の中で、*each other* は束縛されるので、束縛条件 (45A) を遵守している。これに対して、(65b) では、*each other* にとって *he*₂ または AGR₂ が利用可能な SUBJECT であり、したがって、その統率範疇は、埋め込み節の TP ということになる。その統率範疇の中で、*each other* は束縛されていないので、束縛条件 (45A) に違反している。

【問題 11】 (p. 157)

- (67) a. [TP The candidates₁ (AGR₁) expected [themselves/each other₁ to win]]
 b. *[TP The candidates₁ (AGR₁) expected [them₁ to win]]

(67a) において、照応詞 *each other* と *themselves* にとって *the candidates*₁ または

AGR₁ が利用可能な SUBJECT である。よって、その統率範疇は、主節全体の TP ということになる。その統率範疇の中で、each other/themselves は束縛されているので、束縛条件 (45A) を遵守している。同様に、(67b) では、代名詞 them にとって the candidtates₁ または AGR₁ が利用可能な SUBJECT である。よって、その統率範疇は、主節全体の TP ということになる。その統率範疇の中で、them は自由ではないので、束縛条件 (45B) に違反している。

(68) [TP John₁ (AGR₁) seems [t₁ to like Bill]]

(68) において、DP 痕跡 t₁ にとって John₁ または AGR₁ が利用可能な SUBJECT である。よって、その統率範疇は、主節全体の TP ということになる。その統率範疇の中で、t₁ は束縛されているので、束縛条件 (45A) を遵守している。

【問題 12】 (p. 159)

(69) a. [TP We₁ (AGR₁) read each other₁'s books]

b. [TP John₁ (AGR₁) read his₁ books]

(69a) において、照応詞 each other にとって we₁ または AGR₁ が利用可能な SUBJECT である。よって、その統率範疇は、主節全体の TP ということになる。その統率範疇の中で、each other は束縛されているので、束縛条件 (45A) を遵守している。同様に、(69b) では、代名詞 his にとって John₁ または AGR₁ が利用可能な SUBJECT である。よって、その統率範疇は、主節全体の TP ということになる。その統率範疇の中で、him は自由ではないので、誤って、束縛条件 (45B) に違反していると思なされることになる。

【問題 13】 (p. 159)

(71) a. [TP They₁ (AGR₁) expected that [DP₂ pictures of each other₁] (AGR₂) would be on sale]

b. [TP They₁ (AGR₁) expected that [DP₂ pictures of them₁] (AGR₂) would be on sale]

(71a) において、照応詞 *each other* にとって AGR_2 は利用可能ではない。というのは、 AGR_2 と *each other* に同一指標辞をふると、 i 内部の i 条件に違反するからである。したがって、*each other* にとって利用可能な SUBJECT は、 $they_1$ または AGR_1 となり、その統率範疇は、主節全体の TP ということになる。その統率範疇の中で、*each other* は束縛されるので、束縛条件 (45A) を遵守している。全く同様の理由で、(71b) の代名詞 *them* の統率範疇は、主節全体の TP ということになる。その統率範疇の中で、*them* は自由ではないので、誤って、束縛条件 (45B) に違反することになってしまう。

【問題 14】 (p. 163)

(78) a. *[TP It_2 (AGR_2) seems to each other₁ that John and Mary₁ are smart]

b. John and Mary₁ seem to each other₁ to be smart.

(78a) において、照応詞 *each other* にとって it_2 または AGR_2 が利用可能な SUBJECT である。よって、その統率範疇は、主節全体の TP ということになる。その統率範疇の中で、*each other* は束縛されていないので、束縛条件 (45A) に違反している。(78a) の場合には、D 構造でも S 構造でも、*each other* とその先行詞との構造関係は変わらないので、どちらの構造に束縛条件 (A) を適用しても、同じ結果が得られる。それに対して、(78b) の D 構造と S 構造は、概略以下のようになっている。

(78b) DS: [T' (AGR_2) seem to each other₁ [T' to be John and Mary₁ smart]]

SS: [TP John and Mary₁ (AGR_1) seem to each other₁ [t'_1 to be t_1 smart]]

DS において、照応詞 *each other* にとって AGR_2 が利用可能な SUBJECT である。よって、その統率範疇は、主節全体の T' ということになる。その統率範疇の中で、*each other* は束縛されていないので、束縛条件 (45A) に違反している。したがって、もし束縛条件 (A) が D 構造に適用するのであれば、(78b) は、誤って、非文法的であるとされてしまう。これに対して、SS においては、照応詞 *each other* にとって John and Mary₁ または AGR_1 が利用可能な SUBJECT である。よって、

その統率範疇は、主節全体の TP ということになる。その統率範疇の中で、each other は束縛されているので、束縛条件(45A)を遵守している。したがって、束縛条件 (A) が S 構造に適用するとすれば、(78b) は、正しく文法的であるとされる。

(79) a. It seems to Mary₁'s mother that she₁ is honest.

b. *She₁ seems to Mary₁'s mother to be honest.

(79a) において、R 表現 Mary は自由である。したがって、束縛条件 (25C) を遵守している。この場合には、D 構造でも S 構造でも、Mary とそれを束縛しうる代名詞 she との構造関係は変わらないので、どちらの構造に束縛条件 (C) を適用しても、同じ結果が得られる。それに対して、(79b) の D 構造と S 構造は、概略以下のようにになっている。

(79b) DS: [_{T'} (AGR₂) seem to Mary₁'s mother [_{T'} to be she₁ honest]]

SS: [_{TP} she₁ (AGR₁) seems to Mary₁'s mother [_{t'} to be t₁ honest]]

DS において、R 表現 Mary は自由である。したがって、束縛条件 (25C) を遵守している。よって、もし束縛条件 (C) が D 構造に適用するのであれば、(79b) は、誤って、文法的であるとされてしまう。これに対して、SS においては、R 表現 Mary は she によって束縛されている。したがって、束縛条件 (25C) に違反している。よって、束縛条件 (C) が S 構造に適用するとすれば、(79b) は、正しく非文法的であるとされる。

【問題 15】 (p. 164)

(80) a. [_{TP} Dan₁ (AGR₁) wonders [_{CP} which pictures of himself₁ [_{TP} John₂ (AGR₂) bought t where]]]

b. *Dan₁ wonders where John bought which pictures of himself₁.

c. *Dan₁ wonders where John bought every picture of himself₁.

(80a) において、照応詞 himself にとって Dan₁ または AGR₁ が利用可能な

SUBJECT である (ちなみに, John₂ と AGR₂ は himself を m 統御しないので, 利用可能ではない). よって, その統率範疇は, 主節全体の TP ということになる. その統率範疇の中で, himself は束縛されているので, 束縛条件 (45A) を遵守している. (80a) の場合には, S 構造でも LF でも, himself とその先行詞との構造関係は変わらないので, どちらの構造に束縛条件 (A) を適用しても, 同じ結果が得られる. それに対して, (80b, c) の S 構造と LF は, 概略以下のようになっている.

(80b) SS: [TP Dan₁ (AGR₁) wonders [CP where [TP John₂ (AGR₂) bought which pictures of himself₁ t]]]

LF: [TP Dan₁ (AGR₁) wonders [CP where₃ [which pictures of himself₁]₄ [TP John₂ (AGR₂) bought t₄ t₃]]]

(80c) SS: [TP Dan₁ (AGR₁) wonders [CP where [TP John₂ (AGR₂) bought every picture of himself₁ t]]]

LF: [TP Dan₁ (AGR₁) wonders [CP where₃ [TP [every picture of himself₁]₄ [TP John₂ (AGR₂) bought t₄ t₃]]]]]

(80b, c) の LF において, 照応詞 himself にとって Dan₁ または AGR₁ が利用可能な SUBJECT である (ちなみに, John₂ と AGR₂ は himself を m 統御しないので, 利用可能ではない). よって, その統率範疇は, 主節全体の TP ということになる. その統率範疇の中で, himself は束縛されているので, 束縛条件 (45A) を遵守している. したがって, もし束縛条件 (A) が LF に適用するのであれば, (80b, c) は, 誤って, 文法的であるとされてしまう. これに対して, (80b, c) の SS においては, 照応詞 himself にとって John₂ または AGR₂ が利用可能な SUBJECT である. よって, その統率範疇は, 埋め込み節の TP ということになる. その統率範疇の中で, himself は束縛されていないので, 束縛条件 (45A) に違反している. したがって, 束縛条件 (A) が S 構造に適用するとすれば, (80b, c) は, 正しく非文法的であるとされる.

(81) a. Which book that John₁ read did he₁ like?

b. *I don't remember who thinks that he₁ read which book that John₁ likes.

c. *He₁ liked every book that John₁ read.

(81a) において、R 表現 John は自由である。したがって、束縛条件 (25C) を遵守している。この場合には、S 構造でも LF でも、John とそれを束縛しうる代名詞 he との構造関係は変わらないので、どちらの構造に束縛条件 (C) を適用しても、同じ結果が得られる。それに対して、(81b, c) の S 構造と LF は、概略以下のようにになっている。

(81b) SS: I don't remember [_{CP} who [_{TP} t thinks that [_{TP} he₁ read which book John₁ likes]]]

LF: I don't remember [_{CP} who₂ [which book John₁ likes]₃ [_{TP} t₂ thinks that [_{TP} he₁ read t₃]]]

(81c) SS: [_{TP} He₁ liked every book that John₁ read]

LF: [_{TP} [every book that John₁ read]₂ [_{TP} he₁ liked t₂]]]

(81b, c) の LF において、R 表現 John は自由である。したがって、束縛条件 (25C) を遵守している。よって、もし束縛条件 (C) が LF に適用するのであれば、(81b, c) は、誤って、文法的であるとされてしまう。これに対して、(81b, c) の SS においては、R 表現 John は he によって束縛されている。したがって、束縛条件 (25C) に違反している。よって、束縛条件 (C) が S 構造に適用するとすれば、(81b, c) は、正しく非文法的であるとされる。

【問題 16】 (p. 166)

(84) a. The men expected that pictures of themselves/each other would be on sale.

b. *_{[TP} The men₁ (AGR₁) were expected that [_{TP} [_{DP} pictures of t₁]₂ (AGR₂) would be on sale]]]

(84b) の意図された意味は、It was expected that pictures of the men would be on sale が意味するところのものである。(84b) は、この文の深層構造と同じものから、主節の TP 指定部に it を挿入する代わりに、the men をその位置に移動したものである。(84b) において、DP 痕跡 t₁ にとって、AGR₂ は利用可能ではない。というのは、AGR₂ と t₁ に同一指標辞をふると、i 内部の i 条件に違反するからである。したがって、t₁ にとって利用可能な SUBJECT は、the men₁ または AGR₁ と

なり, その統率範疇は, 主節全体の TP ということになる. その統率範疇の中で, t_1 は束縛されるので, 束縛条件 (45A) を遵守している.

(85) *[_{TP} John₁ (AGR₁) seems that it₂ (AGR₂) is certain [_{t₁} to like ice cream]₂]

(85) の意図された意味は, It seems that it is certain that John likes ice cream が意味するところのものである. この構造において, DP 痕跡 t_1 にとって, it_2 および AGR₂ は利用可能ではない. というのは, it_2 /AGR₂ と t_1 に同一指標辞をふると, i 内部の i 条件に違反するからである (仮定により, it と後続する to 不定詞節は同一指標辞をふられている). したがって, t_1 にとって利用可能な SUBJECT は, John₁ または AGR₁ となり, その統率範疇は, 主節全体の TP ということになる. その統率範疇の中で, t_1 は束縛されるので, 束縛条件 (45A) を遵守している.

【問題 17】 (p. 167)

(84b) における the men の主節の TP 指定部への移動は, 循環節点 DP と TP を越えているために, 下接の条件に違反する. このことは, 仮にこの移動が, 途中の CP 指定部へ立ち寄ったとしても, 成立する. しかし, 一般的には, 格移動は, 操作詞移動とは異なり, CP 指定部を脱出口には使えないと仮定されている.

【問題 18】 (p. 171)

(89) a. Who₁ t_1 said Mary had kissed him₁?

b. *Who₁ did he₁ say Mary had kissed t_1 ?

(89a) においては, 変項 t_1 は A 自由である. それに対して, (89b) では, t_1 は he によって A 束縛されるため, 非文法的となる.

【問題 19】 (p. 172)

PRO が John を指し示すと仮定すると, (95) には, 以下のように指標辞がふられる.

(95) John₁ is too clever [_{CP} OP₁ [_{TP} PRO₁ to expect us to catch t_1]]

この構造において、変項 t_1 は PRO によって束縛されるため、A 自由ではない。したがって束縛条件 (92C) に違反する。よって、PRO は 1 以外の指標辞を持たなければならない。これは、とりもなおさず、PRO が John を指し示せないことを意味する。

【問題 20】 (p. 174)

(100) * $[_{CP} \text{who}_1 [_{TP} t''_1 \text{ seems } [_{CP} t'_1 [_{TP} \text{John will see } t_1]]]]$

この構造において、変項 t_1 は t''_1 によって束縛されている。さらに、この t''_1 は操作詞 *who* の領域内にあるので、 t_1 はその操作詞の領域内で束縛されており、(97) の条件に違反することとなる。

【問題 21】 (p. 175)

- (104) a. John bought the dog [___ to give ___ to Mary].
 b. John bought the dog [___ to give bones to ___].
 c. *John bought the dog [for Bill to give ___ to ___].

これらの文の不定詞節には、空項（発音されない項）が二つあることから、空操作詞移動が関わった構文と考えられ、どちらかの空項には空操作詞が生起し、他の空項には PRO が生起すると考えられる。そうすると、それぞれの文には、以下に示す通り、二つの可能性が考えられる。

- (104a) i. $\text{John}_1 \text{ bought the dog}_2 [_{CP} \text{OP}_2 [_{\text{PRO}}_1 \text{ to give } t_2 \text{ to Mary}]]$
 ii. $\text{John}_1 \text{ bought the dog}_2 [_{CP} \text{OP}_1 [t_1 \text{ to give } \text{PRO}_2 \text{ to Mary}]]$
 (104b) i. $\text{John}_1 \text{ bought the dog}_2 [_{CP} \text{OP}_2 [_{\text{PRO}}_1 \text{ to give bones to } t_2]]$
 ii. $\text{John}_1 \text{ bought the dog}_2 [_{CP} \text{OP}_1 [t_1 \text{ to give bones to } \text{PRO}_2]]$
 (104c) i. $\text{John}_1 \text{ bought the dog}_2 [_{CP} \text{OP}_1 \text{ for } [\text{Bill to give } \text{PRO}_2 \text{ to } t_1]]$
 ii. $\text{John}_1 \text{ bought the dog}_2 [_{CP} \text{OP}_2 \text{ for } [\text{Bill to give } t_2 \text{ to } \text{PRO}_1]]$

PRO が照応詞であるとの仮定の下では、PRO が不定詞節の主語の位置に生起している構造以外のもの、すなわち、(104a_{iii}), (104b_{ii}), (104c_{i, ii}) はすべて、PRO とその先行詞との間に主語が介在するため、SSC 違反となる。これによって、(104c) の非文法性が説明できる。そして、残された構造、すなわち (104a_i) と (104b_i) がそれぞれ (104a) と (104b) の正しい構造となる。

(105) *John bought Bill the dog [___ to give ___ to ___].

この文の不定詞節には、空項が三つ存在するが、この節には CP 指定部が一つしか存在しないことから、三つの空項のうち一つは空操作詞でありうるが、他の二つは PRO でなければならない。しかしながら、(104) の説明から明らかのように、PRO は SSC の違反を回避するために、to 不定詞節の主語の位置に生起する必要があるが、この位置も一つしか存在しない。よって、二つの PRO のうちどちらかは give または to の補部の位置に生起する必要があるが、その可能な先行詞 John, Bill, the dog のどれを取っても、必然的に SSC に違反することになる（この説明には、二つの PRO は同じ DP を先行詞として取ることはできないという前提が存在するが、それがなぜなのかについては、判然としない）。

【問題 22】 (p. 191)

(139b) *Who₁ did John wonder [CP how well [TP t₁ (AGR₁) did his work]]

(140b) *Who₁ do you think [CP t'₁ that [TP t₁ (AGR₁) saw Bill]]

この二つの文において、変項 t₁ にとっての統率範疇は、その語彙統率者であり、かつ SUBJECT でもある、埋め込みの時制節内の AGR₁ を含む最小の範疇なので、埋め込み節の TP ということになる。この統率範疇において、t₁ は束縛されていないので、束縛条件 (92A) に違反する。

【問題 23】 (p. 192)

(145) [CP Who₁ do you think [CP t'₁ that [TP Mary saw t₁ yesterday]]]

(146) の統率範疇の定義に基けば、変項 t_1 の統率範疇は、埋め込み節の CP ということになる。この統率範疇において t_1 は t'_1 に束縛されるので、束縛条件 (A) を満たしている。また、 t'_1 の統率範疇は文全体の CP となり、その領域において、who によって束縛されるので、束縛条件 (A) を満たしている。

(143) Your brother, [_{CP} to whom₁ [_{TP} I wonder [_{CP} which stories₂ [_{TP} they told t_2 t_1]]]], was very troubled.

この文において、to whom は、途中の CP 指定部が他の句で埋まっていることから、told の補部の位置から一気に上部の CP 指定部に移動する。この構造において、変項 t_1 の統率範疇は埋め込み節の CP となるが、この領域において束縛されていないので、束縛条件 (A) に違反している。

【問題 24】 (p. 195)

(139) a. ??What₁ did John wonder how well Bill did t_1 ?

b. *Who₁ did John wonder how well t_1 did his work?

(139a) では、what の痕跡 t_1 は動詞 do によって語彙統率されているために、ECP を満たしている。これに対して、(139b) では、who の痕跡 t_1 を語彙統率するのは埋め込み節の AGR 以外存在しないが、AGR は適正統率者からは除外されるため、この仕方では ECP を満たせない。したがって、 t_1 は先行詞統率される必要があるが、同一指標辞を持つ who は t_1 を統率しないため (who と t_1 は明らかに m 統御し合わない)、ECP を満たすことはできない。

【問題 25】 (p. 196)

(142) [_{CP} Who₁ [_{TP} t_1 saw Bill]]

この構造において、who の痕跡 t_1 を語彙統率するのは AGR 以外存在しないが、AGR は適正統率者からは除外されるため、この仕方では ECP を満たせない。したがって、 t_1 は先行詞統率される必要があるが、「統率に関しては、TP は最大範

疇とは見なさない」という仮定のもとでは、 t_1 は同一指標辞を持つ *who* によって統率されるため、ECP を満たす。

【問題 26】 (p. 199)

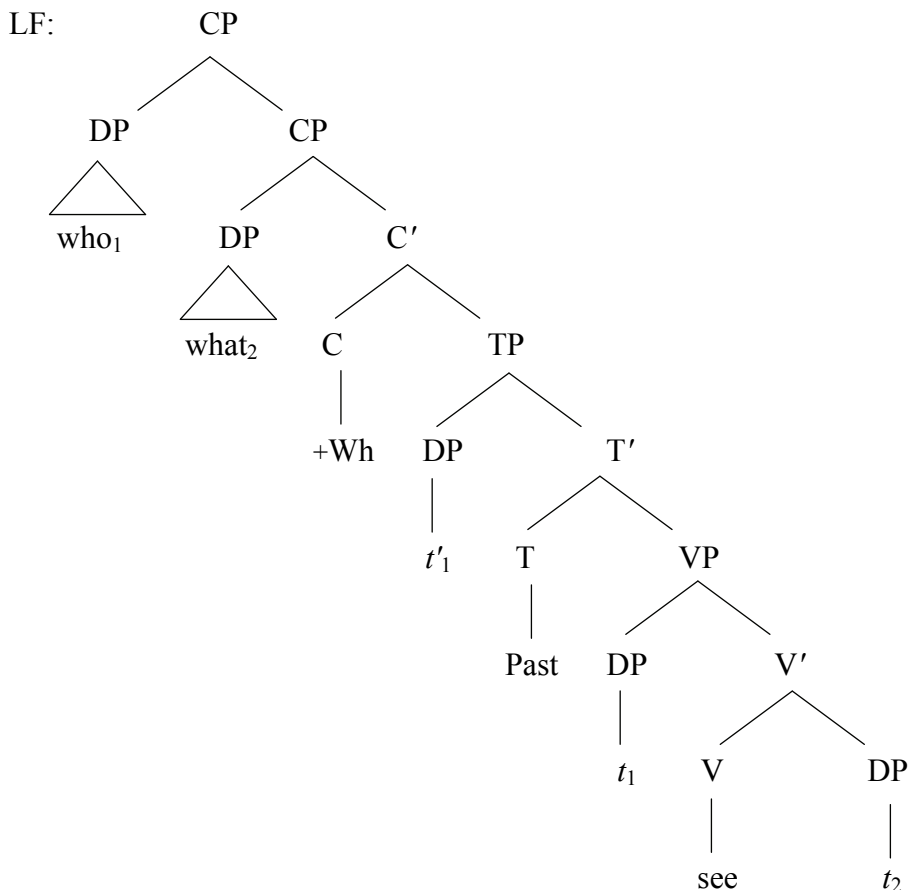
(158) a. It is unclear [_{CP} *who*₁ [_{TP} t_1 saw what]]

b. *It is unclear [_{CP} what₁ [_{TP} who saw t_1]]

(158a) では、*who* の痕跡 t_1 を語彙統率するものは AGR 以外存在しないが、AGR は適正統率者からは除外されるため、 t_1 は先行詞統率される必要があるが、「統率に関しては、TP は最大範疇とは見なさない」という仮定のもとでは、 t_1 は同一指標辞を持つ *who* によって統率されるため、ECP を満たす。また、(158b) では、*what* の痕跡 t_1 は *see* によって語彙統率されるため、ECP を満たす。

【問題 27】 (p. 200)

(158b) *It is unclear what who saw *t*.



この LF 表示において、*what* の痕跡である t_2 は、*see* によって語彙統率されるため、適正統率の条件を満たす。同様に、*who* の基底の位置に残された痕跡 t_1 も *see* によって語彙統率されるため、適正統率の条件を満たす。それに対して、TP 指定部にある *who* の痕跡 t'_1 は、*who* によっては先行詞統率されない。というのは、CP が介在しているため、 t'_1 は *who* を m 統御しないからである。よって、 t'_1 は ECP に違反している。

【問題 28】 (p. 201)

(161) の仮定では、(160) のそれぞれの文は以下の LF 構造を持つ。

(160) a. It is unclear [_{CP} whom₁ [_{CP} who₂ [_{TP} t_2 thinks (that) we saw t_1]]]

b. *It is unclear [CP who₁ [CP who₂ [TP t₂ thinks (that) [TP t₁ saw us]]]]

(160a) において、痕跡 t₁ は see によって語彙統率されるため、ECP を満たす。また、痕跡 t₂ を語彙統率するものは AGR 以外存在しないが、AGR は適正統率者からは除外されるため、t₂ は先行詞統率される必要があるが、「統率に関しては、TP は最大範疇とは見なさない」という仮定のもとでは、t₂ は同一指標辞を持つ who によって統率されるため、ECP を満たす。これに対して、(160b) では、痕跡 t₂ は同一指標辞を持つ who によって統率されるため、ECP を満たすが、t₁ のほうは、同一指標辞を持つ who によって統率されないため、ECP に違反する。

【問題 29】 (p. 202)

(163) a. Bill₁ was believed [TP t₁ to have seen Tom]

b. *Bill₁ was preferred [CP (for) [TP t₁ to have seen Tom]]

c. *Bill₁ was wanted [CP (for) [TP t₁ to have seen Tom]]

(163a) においては、「統率に関しては、TP は最大範疇とは見なさない」ことから、痕跡 t₁ は believed によって語彙統率されるため、ECP を満たす。これに対して、(163b, c) においては、痕跡 t₁ は、CP が介在するため、preferred/wanted によって語彙統率されないし、先行詞 Bill によっても先行詞統率されないため、ECP に違反する。

【問題 30】 (p. 202)

これまでの仮定では、(164) のそれぞれの文は以下のような LF を持つ。

(164) a. [CP Who₁ would [TP you prefer [CP for [TP Bill to have seen t₁]]]]

[CP Who₁ would [TP you prefer [CP t'₁ [TP Bill to have seen t₁]]]]

b. [CP Who would [TP you prefer [CP t'₁ [TP t₁ to have seen Mary]]]]

c. [CP Who would [TP you prefer [CP for [TP t₁ to have seen Mary]]]]

(164a) では、下接の条件を満たすために who は埋め込み節の CP 指定部を經由して、主節の CP 指定部へ移動するが、「二重占有補文標識フィルター」(153) に

より, *for* が存在する場合は, 埋め込み節の CP 指定部に痕跡を残すことはできない. いずれの場合にしても, 痕跡 t_1 は *seen* によって語彙統率されるため, ECP を満たす. (164b, c) の派生に関しても, 下接の条件を満たすために *who* は埋め込み節の CP 指定部を経由して, 主節の CP 指定部へ移動するが, 「二重占有補文標識フィルター」(153) により, (164c) のように *for* が存在する場合は, 埋め込み節の CP 指定部に痕跡を残すことはできない. (164b) では, 痕跡 t_1 は, その上の痕跡 t'_1 によって先行詞統率されるため, ECP を満たす. これに対して, (164c) では, 痕跡 t_1 は, *who* によって先行詞統率されないため, ECP に違反する.

【問題 31】 (p. 205)

(170) a. $Who_1 ec_1$ said Mary had kissed him_1 ?

b. * Who_1 did he_1 say Mary had kissed ec_1 ?

(170a) においては, *ec* は A 位置にあり, *who* によって局所的に A' 束縛されるので, (165i) により, [-a, -p] の値が付与され, 正しく変項と認定される. これに対して, (170b) において *ec* は, A 位置にあり, *who* によって局所的に A' 束縛されない. というのは, この *ec* は *he* によって局所的に束縛されるからである. よって, [-a, -p] の値は付与されず, (165ii) により, [+a] の値が付与される. さらに, *ec* は *he* によって局所的に A 束縛されるが, この場合 *he* は固有の θ 役割を持っているために, (165iii) により, [+p] の値が付与され, 結果として PRO と認定される. そうすると, この *ec* は束縛条件 (A) と (B) の両方の適用を受けるが, *kiss* に語彙統率されるため, その統率範疇が埋め込みの TP と決定されてしまう. この統率範疇において *ec* は束縛されていないので, 束縛条件 (A) に違反する.

【問題 32】 (p. 206)

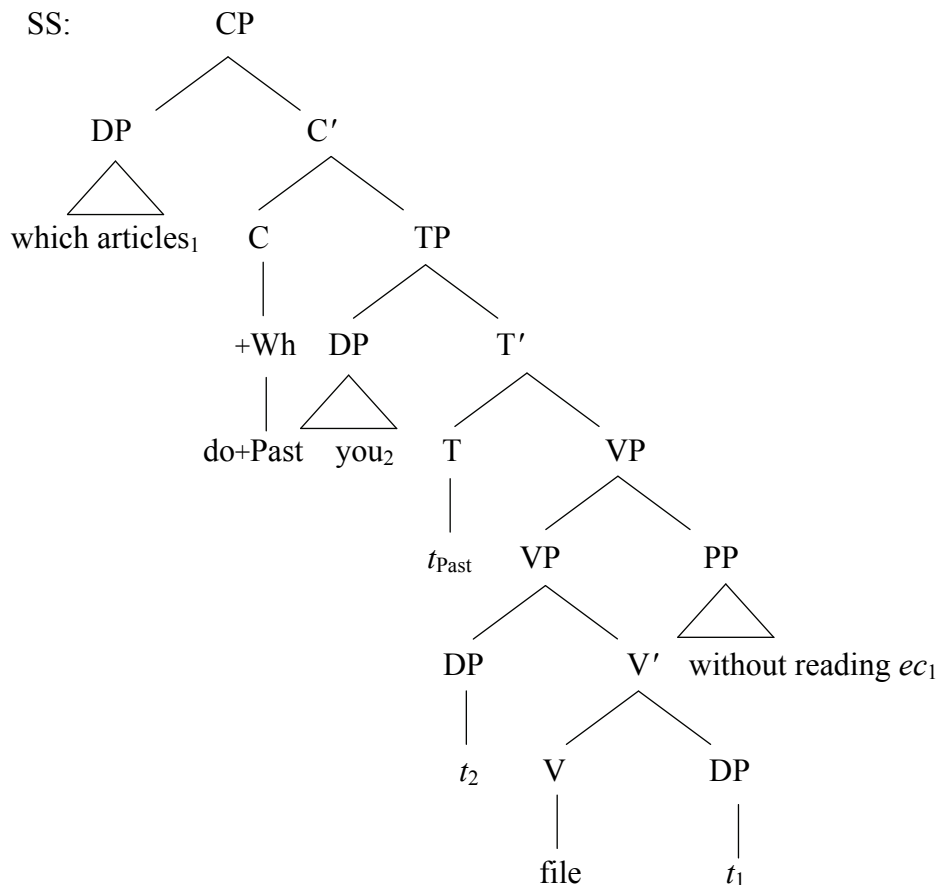
もし PRO が John を指し示すとすると, (172) は以下のような表示を持つこととなる.

(172) $John_1$ is too clever [_{CP} OP₁ [_{TP} ec'_1 to expect us to catch ec_1]]

この構造において ec_1 は、A 位置にあり、 OP_1 によって局所的に A' 束縛されない。というのは、この ec は ec'_1 によって局所的に束縛されるからである。よって、 $[-a, -p]$ の値は付与されず、(165ii) により、 $[+a]$ の値が付与される。さらに、 ec_1 は ec'_1 によって局所的に A 束縛されるが、この場合 ec'_1 は固有の θ 役割を持っているために、(165iii) により、 ec_1 に $[+p]$ の値が付与され、結果として PRO と認定される。そうすると、この ec は束縛条件 (A) と (B) の両方の適用を受けるが、*catch* に語彙統率されるため、その統率範疇が埋め込みの TP [*us to catch ec₁*] と決定されてしまう。この統率範疇において ec は束縛されていないので、束縛条件 (A) に違反する。また、 ec'_1 は、A 位置にあり、 OP_1 によって局所的に A' 束縛されるので、(165i) により、 $[-a, -p]$ の値が付与され、変項と認定される。しかしながら、この変更は格を受け取ることができない。したがって、 θ 付与に課せられる可視条件 (132) 「項が θ 役割を付与されるためには、その項が PRO であるか、もしくは格を保有していなければならない」に違反することになる。以上より、(172) は非文法的であることになる。したがって、PRO は *John* を指し示すことはできない。

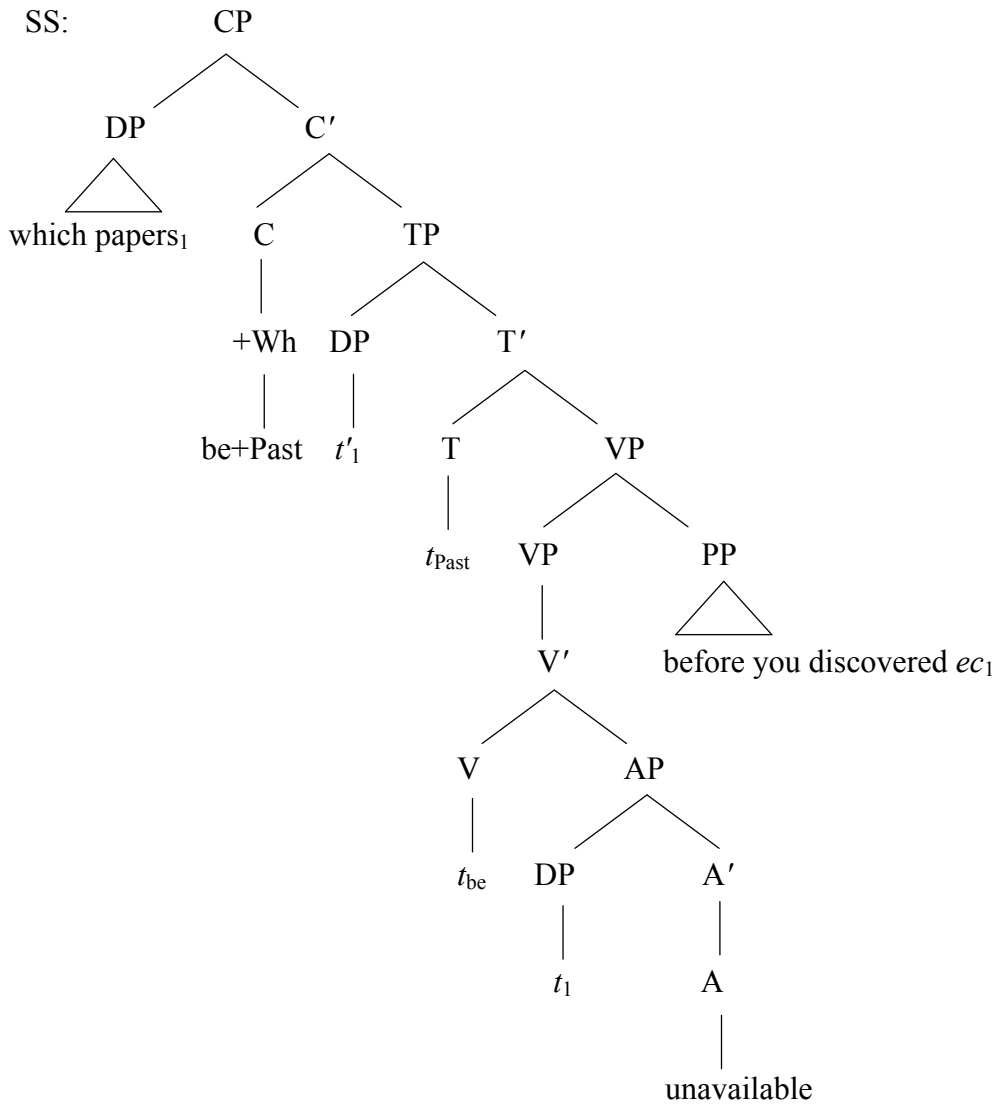
【問題 33】 (p. 210)

(174) Which articles did you file *ec* without reading *ec*?



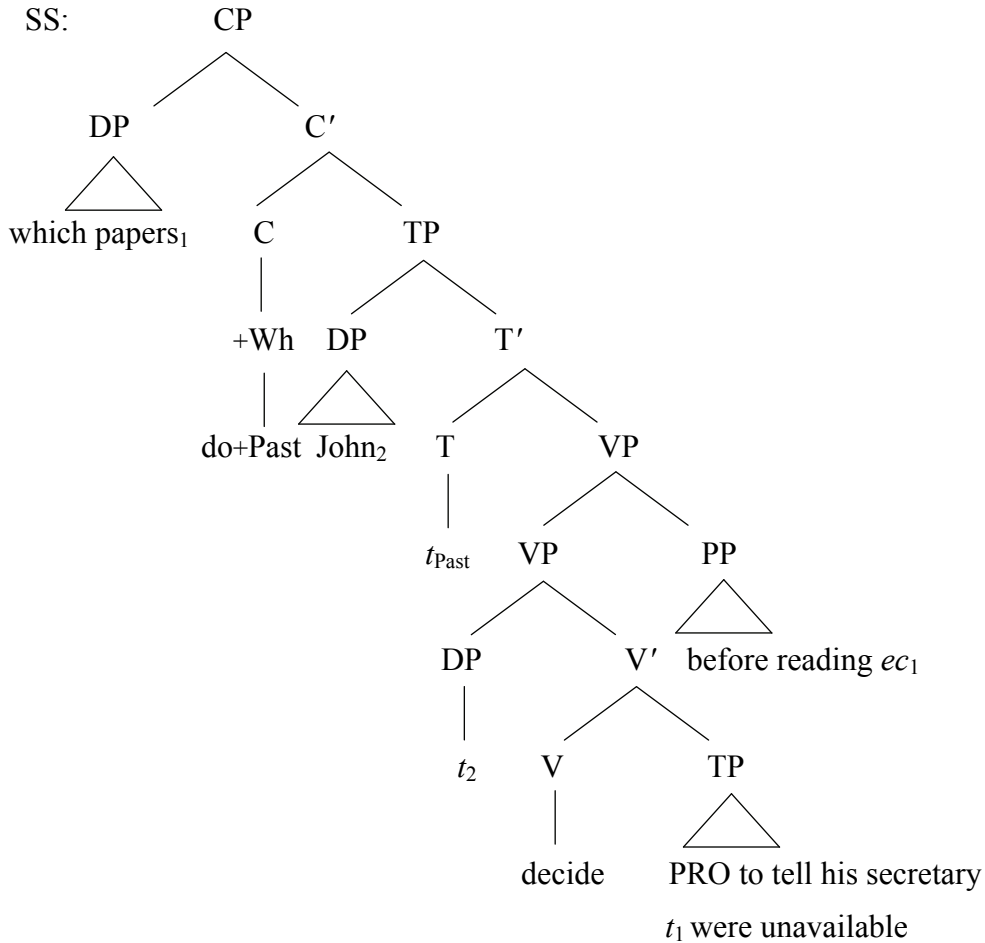
この構造において、which articles の痕跡である t_1 は寄生空所である ec_1 を c 統御しない。というのは、この痕跡の領域は V' であるが、この領域内に ec_1 は含まれていないからである。

(183a) *Which papers *ec* were unavailable before you discovered *ec*?



この構造において、which papers の痕跡である t'_1 は寄生空所である ec_1 を c 統御する。というのは、この痕跡の領域は TP であるが、この領域内に ec_1 は含まれているからである。

(183b) Which papers did John [decide to tell his secretary *ec* were unavailable] before reading *ec*?



この構造において、which papers の痕跡である t_1 は寄生空所である ec_1 を明らかに *c* 統御しない。

【問題 34】 (p. 212)

(176) *I filed these articles₁ without reading ec_1 .

この文の D 構造では、(174)の場合と同様、*ec* は PRO と認定されるが、問題が発生するのは、この文の場合、S 構造においても *ec* は PRO と認定されるということである。そうすると、この *ec* は S 構造で束縛条件 (A) と (B) の両方の適用を受けるが、reading に語彙統率されるため、その統率範疇が埋め込みの TP

[PRO reading ec_1] と決定されてしまう。この統率範疇において ec は束縛されていないので、束縛条件 (A) に違反する。

(177) *John was killed ec by a tree falling on ec .

この文の D 構造は、概略以下のようなになる。

DS: was killed $John_1$ by a tree falling on ec_1

この構造において、 ec_1 はまず、局所的に A' 束縛されていないので、(165ii) より、[+a] の値を付与される。また、これまでの仮定により by 句は VP に付加されているので、 ec_1 は John によって c 統御されない。したがって、 ec_1 は自由であり、(165iii) より、[+p] の値を付与される。結果として、この空範疇は D 構造において PRO と認定される。これ自体は、(174) の D 構造と同じ結果であり、問題は引き起こさない。次に S 構造を考察する。

SS: $John_1$ was killed t_1 by a tree falling on ec_1

この構造において、 ec_1 はまず、局所的に A' 束縛されていないので、(165ii) より、[+a] の値を付与される。また、 ec_1 は $John_1$ によって局所的に A 束縛されるが、この場合 $John_1$ は固有の θ 役割を持っているために、(165iii) により、[+p] の値が付与され、結果として PRO と認定される。そうすると、この ec は S 構造で束縛条件 (A) と (B) の両方の適用を受けるが、on に語彙統率されるため、その統率範疇が埋め込みの TP [a tree falling on ec_1] と決定されてしまう。この統率範疇において ec は束縛されていないので、束縛条件 (A) に違反する。

(178) a. *I forgot who filed every article₁ without reading ec_1 .

b. *I forgot who filed which article₁ without reading ec_1 .

これらの例は、LF に至るまでに、every article と which article が A' 移動し、A' チェーンを形成するが、D 構造と S 構造に関しては、(176) と状況は変わらない。すなわち、S 構造において ec_1 は PRO と認定されるということである。そうす

ると、この *ec* は S 構造で束縛条件 (A) と (B) の両方の適用を受けるが、reading に語彙統率されるため、その統率範疇が埋め込みの TP [PRO reading *ec*₁] と決定されてしまう。この統率範疇において *ec*₁ は束縛されていないので、束縛条件 (A) に違反する。

以上のことから、寄生空所は可視移動によって作られた A' チェーンによって認可される必要があることがわかる。

【問題 35】 (p. 212)

(183) a. *Which papers₁ were unavailable before you discovered *ec*₁?

この文の D 構造では、which papers は【問題 33】の解答箇所ですら記した S 構造の痕跡 *t*₁ の位置に生起しているため、寄生空所 *ec*₁ を c 統御していない。よって、(165) のメカニズムにより、この *ec* は PRO と認可される。これ自体は、(174) の D 構造と同じ結果であり、問題は引き起こさない。しかしながら、問題は S 構造にある。上に掲げた S 構造において、*ec*₁ は which papers によって局所的に A' 束縛されない。というのは、この *ec* は which papers の痕跡である *t*₁ によって局所的に束縛されるからである。よって、[-a, -p] の値は付与されず、(165ii) により、[+a] の値が付与される。さらに、*ec*₁ は *t*₁ によって局所的に A 束縛されるが、この場合 *t*₁ は固有のθ役割を持っているために、(165iii) により、[+p] の値が付与され、結果として PRO と認定される。そうすると、この *ec* は束縛条件 (A) と (B) の両方の適用を受けるが、discover に語彙統率されるため、その統率範疇が埋め込みの TP [you discovered *ec*₁] と決定されてしまう。この統率範疇において *ec* は束縛されていないので、束縛条件 (A) に違反する。

以上のことから、寄生空所構文において、痕跡は寄生空所を c 統御してはならないことがわかる。

【問題 36】 (p. 212)

(186) This is the kind of food you must cook *ec* before you eat *ec*.

この文の D 構造は、概略以下のようにになっている。

DS: This is the kind of food you must cook OP_1 [before you eat ec_1]

この構造において、 ec_1 はまず、局所的に A' 束縛されていないので、(165ii) より、 $[+a]$ の値を付与される。また、この空範疇は OP_1 によって c 統御されないことから、自由であり、(165iii) より、 $[+p]$ の値を付与される。結果として、この空範疇は D 構造において PRO と認定される。これ自体は、問題を引き起こさない。次に S 構造を考察すると、

SS: This is the kind of food [$_{CP} OP_1$ [$_{TP}$ you must cook t_1 [before you eat ec_1]]]

この構造において、 ec_1 は、(166) の定義により、 OP_1 によって局所的に A' 束縛される。というのは、 t_1 と ec_1 の間に c 統御関係が成り立っていないからである。そうすると、(165i) により、 ec_1 は $[-a, -p]$ の値を付与され、正しく変項と認定される。LF 表示も S 構造と何ら変わるところはないので、同様に適格と見なされる。

(187) This book is too interesting to put ec down without having finished ec .

この文の D 構造は、概略以下のようにになっている。

DS: This book is too interesting PRO to put OP_1 down [without having finished ec_1]

この構造において、 ec_1 は局所的に A' 束縛されていないので、(165ii) より、 $[+a]$ の値を付与される。また、この空範疇は OP_1 によって c 統御されないことから、自由であり、(165iii) より、 $[+p]$ の値を付与される。結果として、この空範疇は D 構造において PRO と認定される。これ自体は、問題を引き起こさない。次に S 構造を考察すると、

SS: This book is too interesting [$_{CP} OP_1$ [$_{TP}$ PRO to put t_1 down [without having finished ec_1]]]

この構造において, ec_1 は, (166) の定義により, OP_1 によって局所的に A' 束縛される. というのは, t_1 と ec_1 の間に c 統御関係が成り立っていないからである. そうすると, (165i) により, ec_1 は $[-a, -p]$ の値を付与され, 正しく変項と認定される. LF 表示も S 構造と何ら変わるところはないので, 同様に適格と見なされる.